

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成 25 年 12 月 21 日



晩秋の上田城跡公園

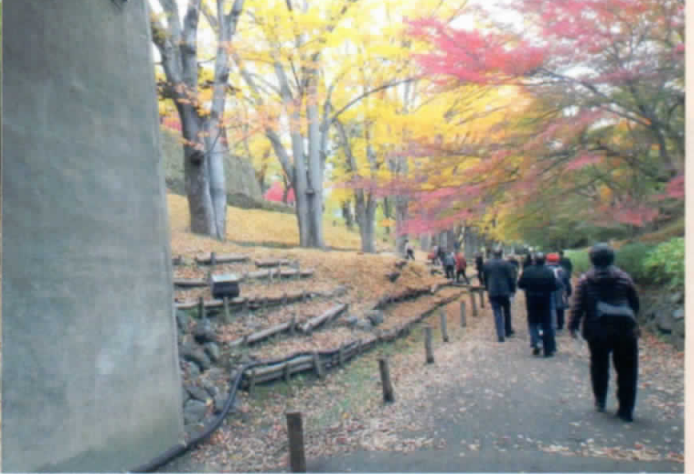
… 若き日の思い出も豊かな…

写真提供：上田市公園緑地課 HP

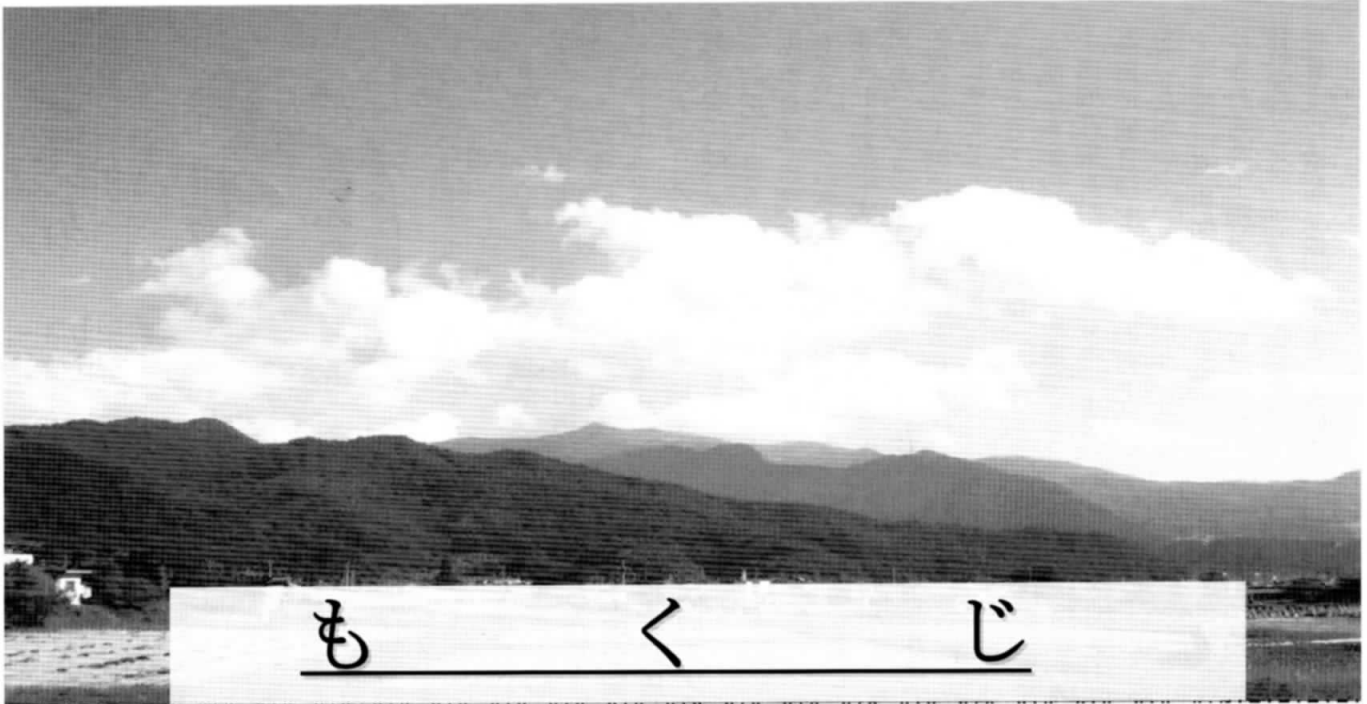
NO.

26

写真：上田城跡公園の春秋



写真提供：上田市公園緑地課 HP・武捨衛人



もくじ

一	表紙：上田城跡公園の晩秋			編集部	一
二	ふるさとの写真1：上田城跡公園の春秋			編集部	二
三	目次			編集部	三
四	ごあいさつ	会長(横沢出身)	山口 元彦		四
五	魅力あふれる上田市に向けて	上田市長	母袋 創一		五
六	上田市の未来に向かって	上田市議会議長	尾島 勝		六
七	ふるさと真田に息づく自然・歴史・文化	真田地域自治センター次長	藤沢 久雄		七
八	時代の移り変わりの中で	上田市議会副議長	清水 俊治		七
九	故郷も頑張っています	上田市議会議員	古市 順子		八
一〇	ふるさとから	上田市議会議員	三井 和哉		八
一一	日本ダボスに寄せて～上田市議会の動静	上田市議会議長	小山 晃		九
一二	《寄稿》故郷を偲ぶ手掛かりに	上田市在住	堀内 泰		一〇
一三	真田まつりに参加して	顧問(戸沢出身)	中島 正江		一一
一四	二つの戸沢	会員(戸沢出身)	柳沢 郁政		一二
一五	「ふるさと訪問旅行」	理事(横尾出身)	花岡 孝雄		一四
一六	雑詠	顧問(大庭出身)	三井 芳郎		一五
一七	《寄稿》今の生活	三井顧問夫人	三井 謙		一五
一八	第二六回定期総会・懇親会のご報告	事務局長(横尾出身)	鈴木 邦子		一七
一九	各部の活動報告		各担当理事		二二
二〇	ふり返れば	会員(萩出身)	柳沢 實		二三
二一	山菜採り	会員(大庭出身)	内海 宏光		二三
二二	七七歳の足跡	理事(中組出身)	武捨 衛人		二四
二三	会員の皆様の近況報告抜粋				二七
二四	編集後記				二七
二五	会員消息・おしらせ等				三二
二六	平成24年度 決算報告書				三三
二七	平成25年度 事業計画・収支予算・役員名簿				三四
二八	広 告				三五
二九	掲載写真				三七
三〇	ふるさとの写真2：新装傍陽小学校の諸施設				三九
三一	裏表紙：新装なった傍陽小学校				四〇

ごあいさつ

会長 山口元彦

(横沢出身)



こんにちは！皆さまお健やかに
お過ごしでしょうか。

日頃は会の運営につきお世話に
なっております。また、上田市の
皆さまには温かいご支援を賜って
おり、心より感謝申し上げます。

五月二十六日に行われた総会・
懇親会には、多数の会員の皆さまが
ご出席下さり、ふるさとからも
副市長様、市議会議長様をはじめと
するトップの方々ご列席下さって、
充実した会にすることができ、また
アトラクションでは江戸芸「かつぼれ」
の皆さまがにぎやかに盛り上げて
楽ませて下さいました。

ふるさと訪問旅行は、二十二名
(他に宴会のみ一名)が参加して、
上田城紅葉まつりを楽しみ、また、
真田地域自治センターのお力添え
をいただいて、新しくなった傍陽
小学校、真田図書館を見学し、
ゆきむら夢工房での「そば打ち」
体験やリング狩りをし、帰路には、
世界文化遺産登録申請をしている

富岡官営製糸場を見学しました。
どれも素晴らしい体験でしたが、特に、
木材がふんだんに使われて明るく
近代的な傍陽小学校では、参加者一同
から、もう一度ここに入学したいと
いう声があふれました。子供たちの
作品や修学旅行記の壁新聞などには、
生き生きとして自分の意見や工夫
が凝らされていて、一同感心しまし
た。字数の関係で他は省略します
(参加者が旅行記をお書きくださ
ると思いますので、そちらに譲りま
す。)

上田会と共催のゴルフコンペや
会員親睦マレットゴルフ会なども、
例年通り楽しく行われました。

ところで、私事ですが、昨年二月
から十二月まで、母が傍陽のグルーブ
ホームでお世話になりました。職員
の方たちが、ゆったりとした接し方で
親身にお世話して下さいましたおかげ
で、ひねもす居眠りばかりしている
ような状態だった母が、よくしゃべり
よく笑いよく動き回るようになって
くれました。入居前も、自宅で訪問
介護等を受け、ケアマネージャーや
ヘルパーさんたちが、いっしょよう
けんめいにお世話下さり、また、
近所の皆さまも何かと気を配って

下さいました。この経験を通じて、
ふるさとの人たちの温かさや上田
市の福祉の充実していることをあら
ためて実感し、これまで以上に
ふるさとが身近になりました。

同時に、公共交通の不便さも身に
染みしました。月に一、二回、週末に
東京から傍陽のホームと横沢の家
に通いましたが、傍陽方面のバスは
休日は運休なので、真田自治センタ
入り口と傍陽の間を徒歩で往復する
ことを繰り返しました。これは一例
であり、ほかにもいろいろ不便な点
がありますので、マイカー族では
ない人たち、特にお年寄りは、さぞ
かし大変だろうなと思いました。
地元では、公共交通を充実させる
取組みが行われており、今年十月
一日から、運賃低減バスの実証運行
が始まりました。運賃が上田から
真田や傍陽までだとこれまでの
半額以下になり、また、自治センタ
ーと赤井をつなぐバスができました。
この努力が実り、バスの利用者
が増えて、使い勝手の良いダイヤ
が組めるようになってくれること
を祈っております。

このような経験から、私たちは、
ふるさとの「歴史」や「想い出」を
大切にすると同時に、「今現在の」
ふるさとで暮らす人たちの息吹や
日常の生活条件などを身近に感じ
とり、私たちがそこどうつながって
いくかを考えて行動することも、
「真田町の会」にとって大切なこと
だと、あらためて痛感した次第です。

さて、上田では、交流文化芸術
センター及び市立美術館の建設が、
来年秋の開館を目指して進んで
おり、また、太陽光発電など自然
エネルギーの利用も進められるな
ど、未来を見据えた取組みが行われ
ております。私たち東京真田町の会
も、ふるさとの発展に力づけられな
がら、前向きに進んでいきたいと願っ
ています。今後ともご支援ご鞭撻くだ
さいますよう、よろしくお願い申し
上げます。



魅力あふれる上田市に向けて

上田市長 母袋 創一



東京真田町の会の皆様には、御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

また日頃から故郷にお寄せいただいております温かい御支援と御協力に心から感謝申し上げます。

発生から2年半が経過した東日本大震災の被災地では復興への歩みが着実に進められておりますが災害の爪跡は未だ深く、上田市でも42世帯110人を越える避難者が生活されています。11月には仙台市出身で自身も実家が被災した、信州上田特別観光大使の歌手、三代目コロムビア・ローズ野村未奈さんと宮城県内被災地の仮設住宅を訪問し、歌声と林檎を届けてまいりました。今後も息の長い支援を行ってまいります。

全国で局地的大雨による被害が相次ぎ、大規模地震の発生による甚大な被害も予測されているなかで、震災等を教訓に自然災害への備え

を万全なものとするために上田市では相互応援など様々な協定の締結を進めております。4月には東京都練馬区・埼玉県上尾市との三者により「災害時相互応援に関する協定」を締結し、災害に強い安全・安心なまちづくりへの備えのひとつとして、強固な連携体制を整えることができました。また、未来を担う子ども達の安全のために市内小・中学校の耐震化につきましても、児童・生徒の安全確保を最優先に考え、平成27年度までの完了を目指して積極的に取り組みを進めております。昨年9月の火災により校舎を消失した浦里小学校におきましても、教室の改修や特別教室棟の建設等教育環境の整備を進め、子ども達に平穏な学びの場と笑顔が戻ってきていると感じております。

合併後7年が経過し、これまでに培った一体感や市民力を基盤に「成長・発展期」に踏み出した上田市は、様々な課題を解決しつつ確実に前進しております。輝く未来をより確固たるものとするため、「生活快適都市」「健康元気都市」「文化の薫る創造都市」の実現に向けて取り組みを進めるなか、次代を担う子ども

もたちを良質な環境の中で心身ともに健やかに育むための未来に対する投資、「育成」に力を入れてまいります。

文化芸術によるまちづくりを目的に、平成26年10月の開館を目指して整備を進めております交流・文化施設は、施設の名称を「上田市交流文化芸術センター」及び「上田市立美術館」としました。開館に向けて市民の皆様との協働により事業を構築し、文化芸術が持つ可能性を活かして、人・まち・文化が育ち、そこから生まれる賑わいや活力が心豊かな市民生活と都市創造を実現していく、文化の薫るまちづくりを着実に進めてまいります。

上田市の主要産業として取り組む観光振興では、真田ブランドや上田の魅力戦略的に展開し、特に上田城千本桜まつりは全国から大勢の皆様をお迎えするイベントに成長しております。さらなる誘客のため現在、上田・東京間の高速バス路線にて「真田三代の郷 信州上田」をPRするラッピングバスの運行や「信州上田おもてなし武将隊」による全国各地でのPR活動などを積極的に展開しております。今後も、真田氏にゆかりのある上田市と長野市、群馬県内11市町村で設立した「真田街道推進機構」をはじめ、これまでの活動を通じて深まった真田氏ゆかりの自治体とも連携し、昨今の戦国武将人気、歴史ブームを活かし、全国的に人気の

高い真田氏を基軸とした風格のあるまちづくりを進め、観光振興による交流人口の拡大を図ってまいります。

真田地域の事業といたしましては、真田氏発祥の郷を訪れる観光客が今後さらに増加すると見込まれることから、真田地域の史跡等を表示した案内板を設置したほか、ゆきむら夢工房の施設整備を進めております。また、会議や研修会等の利用が増加している真田中央公民館大ホールは、昨年の照明設備交換に続き、床面の改修を進め利便性の向上を図ります。真田運動公園グラウンドは、近年のブームにより増加しているランニングコース利用者との事故防止のため、防球フェンスの整備等により安全性を高めてまいります。全国から利用者が集う、菅平高原スポーツランド陸上競技場は、日本陸連の公認施設としての施設整備を進め、さらなる利用向上を見込んでおります。ふるさとにお帰りの際にご覧いただけましたら幸いに存じます。

来年、再来年は、大坂の陣から400年にあたり、上田市としても真田幸村公の大坂城入城400年という世紀の節目となります。大阪では大きな動きが見込まれ、呼応するように様々な話が出てきております。

また、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップのキャンプ地誘致に向け、誘致する会

が立ち上がりました。さらに、東京オリンピックの開催決定を受け、近隣市町村では高地トレーニンング用のスポーツ施設誘致に向けた動きも出ており、将来的には地域として連携も視野に入れる必要性もあるかと思われまます。

ほかにも北陸新幹線の金沢延伸など上田市を取り巻く環境に大きな変化が訪れようとしております。あらゆる変化をいち早く読み取り、様々な施策を迅速かつ的確に実行する「まちづくり」により、この転換期を確実にチャンスに変えてまいります。

東京真田町の会の皆様におかれましても、魅力あふれる上田市に向けて、市民との協働の理念のもと、創意と工夫を重ね、創造と挑戦の気概を持ち、明るい未来の実現に取り組み故郷上田市を暖かく見守っていただき、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝と御多幸を心からご祈念申し上げ、会報「日本ダボス」に寄せるあいさつと致します。



上田市の未来に向かって

上田市議会議長 尾島 勝



「日本ダボス」第二十六号の発行おめでとうございます。また、五月に東京真田町の会にお招きいただいた際には、変わらぬご厚情を頂戴し、有意義な時間を過ごさせていただきました。改めて、会員皆さんの日頃のご活動に對しまして、感謝申し上げますとともに敬意を表します。

さて、上田市議会は、新市の議会として生まれ変わりましたから第二期目、八年を終えようとしております。これまでの間は、新生上田市がどの方向に進むべきか考え、市政に對して提言もしながら、市議会の使命であります市政の監視機能を果たす一方で、市民の意見を市政に反映させる上田市の議会としてどうあるべきかを自ら模索し、新たな議会運営の確立と議会改革に取り組んでまいりました。

そのような中で開催を始めました「議会報告会」は三年を重ねることとなり、毎年開催方法を検証し、工夫しながら内容の充実に努めてまいりました。その結果、議会活動についてより分かりやすく市民に説明していくことの必要性和、多様な市民意見を受け止め、市政に反映していくことの大切さを現場で実感することとなり、議会活動に対する熱意を新たにしたところであります。

一方、地方自治体は現在、地方分権という大きな流れの中にあります。この流れは、国、都道府県、市町村の間に止まらず、上田市内においても、地域ごとに一定の財源や人的資源を独自に持ち、地域づくりを行う「地域内分権」という形が模索されております。

こうした中で真田地域を見たときには、全国的に名の知られた戦国

武将である真田家発祥の地であること、あるいは夏季、冬季を問わず、多くの人々にスポーツの楽しさを提供できる地であるということから、大きな可能性を感じているところであります。

折しも、地域に点在する真田家関連の観光地を巡るタクシーの運行や、ラグビーワールドカップ平成三十一年日本開催決定を受けたキャンプ地誘致の動きなどが具体化しており、着実に成果を上げております。

このような中で、東京真田町の会の皆さんの、ふるさとを離れて思う視点からのご意見がますます貴重になってまいりますし、公的あるいは私的なご縁をもとにしたご支援をいただき、地域の魅力を多くの方に紹介いただければ、地域発展に一層貢献していただける場面がふえていくものと考えます。

上田市議会といたしましても、このような流れを認識した上で、上田市の未来に向けて議会改革と地域づくりを進めてまいりますので、東京真田町の会の皆さんにおかれましても、今後ともよろしくお願いいたします。

末筆ながら、この会報を通じて皆さんの交流がさらに深まり、東京真田町の会が益々発展されますことを心からご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

ふるさと真田に息づく自然、歴史、文化

真田地域自治センター次長 藤沢久雄



日本ダボス第26号発行に寄稿させていただきましたありがとうございます。また、本年5月の第26回東京真田町の会定期総会にお招きいただきましてありがとうございます。会員の皆様方がふるさと真田に熱き思いを寄せておられることに感謝申し上げます。

私は旧真田町役場振興公社在職中の平成7年に貴会総会に出席させていただきました。その際に僅かばかりではございましたが、ふるさと真田町の旬の幸をおみやげで総会に出席された会員の皆様方にお配りいたしましたところ大変喜んでくださいました。ふるさと真田の土の匂いが会場一杯に漂いました。合併して8年、東京真田町の会の皆様方が住まれていた頃の真田地域とは大きく変貌しておりますが、地域の皆様は会員の皆様方と同様に、この真田地域を愛しております。真田

地域の自然、歴史、文化など地域の特色や個性を生かしながら、地域の皆様と協働により真田地域らしいまちづくりを進めております。平成二五年度の主な取り組み事業についてご報告させていただきます。

自家用車の普及が進み、人口の減少や少子高齢化により、バスを中心とした公共交通の利用は減少している中で、なくてはならない路線バスをまちづくり・人づくり・健康づくりに活かすために、新たな視点と逆転の発想を持って、10月1日より上田市運賃低減バス実証運行が市内全域で開始されました。

真田地域へは上田駅から横沢、入軽井沢、大倉まで350円、大日向まで400円、渋沢まで450円、菅平までは以前1,300円の乗車料金が500円に、これ以外の地区までは300円で乗車できるようになりました。

そして新たに、自治センター入口から真田氏歴史館経由赤井公民館、赤井公民館から御屋敷公園、小玉上郷沢、竹室、荒井地区内を経由して自治センター入口に戻る御屋敷公園線が新設されました。乗車料金

は100円でございます。

また、本原地区内を経由するバス路線に本原小学校前など3箇所のバス停が新たに新設されました。

真田地域では路線バス等の利用促進のために、平成23年度に真田地域公共交通利用促進協議会を立ち上げ、利用促進に向けた調査、研究、乗降客数増加を目指しイベントの開催、広報活動を実施してまいりました。また、真田地域協議会においても運賃低減バス運行計画を踏まえ地域公共交通について協議しました。

「乗って残そう！乗って活かそう！バス路線」を合言葉に、真田地域活性化のためにバス利用の推進を図ってまいります。

今後とも真田地域発展のために、会員の皆様方からの変わらぬご指導をお願いするとともに、ふるさと真田に熱き思いを持ち続けていただき、結ばに東京真田町の会の益々のご発展と会員の皆様方のご活躍をお祈り申し上げます。

時代の移り変り

の中で

上田市議会副議長

清水 俊治

東京真田町の会の皆様には、ご健

勝で御活躍のこと健やかにてお過ごしのこと、心からお喜び申し上げます。

今年も第二十六回総会にお招きをいただき感謝申し上げます。思えば昭和六十三年の上野の「池之端文化センター」での創立総会に真田町の各種団体へのお誘いがあり、農協の役員代理として参加させていただきました。



町からはバスをチャーターしての出席であり、あの大きな会場が郷土の出身者で一杯となり、同級生や同郷の皆さんも沢山出席されたの総会でありました。

その後「乃木坂」の会場から「アルカディア」と出席者の数も高齢化や他界する人があってか年々減少し又、上田市に合併してからは、市議会と市長部局からの限られた数の出席者となりました。

会長さんも小林孝雄さん、三井芳郎さん、塩沢和政さん、中島正江さん、そして現在の山口元彦さんへとバトンタッチされました。役員の皆さんも少しづつ変わって理事をさ

れて色々お世話を頂きました。創立より二十六年の歳月は長いようで過ぎてみれば、ほんの一瞬の出来事であったように思います。真田町の時代から新上田市が誕生して早くも八年が経過しようとしています。

先日「東京上田会」が浅草のビューホテルで開催され、お招きをいただきました。東京真田町の会からも山口元彦会長さんや顧問の中島正江さん、幹事の深町共栄さんも同席されました。

「東京上田会」の会長さんも、森さんから山崎さんと今年は変わり、先日上田市議会の正副議長と話し合いが持たれました。今後の新しい方向性の中で、「東京真田町の会」と「東京上田会」「東京丸子会」との合併の研究をしたいとお話がありました。それぞれの会の歴史や会員の構成等色々検討し研究する要素もありますが、将来の課題として考える時期が来ていることも感じました。

最後に上田市として、姉妹都市を結んでいる兵庫県豊岡市は野生のコウノトリの国内最後の生息地ですが、自然復帰を目指して放鳥されたそのコウノトリが九月十四日に上田市塩田の池や水田に飛来して一ヶ月近く滞在中を市民を喜ばせています。テレビや新聞でも報道され明るいニュースであります。

おわりに、会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心か

ら、ご祈念申し上げます。

故郷も

頑張っています

上田市議会議員

古市 順子



真田の郷も秋が深まり、冬の準備が急がれる頃となりました。今年も5月の総会の折は大変お世話になりました、楽しい一時を過ごさせていただきました。

今年には異常気象で、こちらでは4月20日に積雪があり、果樹の凍害が心配されました。また、7月には長から本原にかけての果樹地帯で雹が降り雹害も発生しました。たくさんの手間をかけて一年に一度収穫する果樹は、天災によって台無しになってしまうこともあります。今年には品質への影響はないとは言えないようですが、初秋から多くの種類のリンゴが収穫されています。これからは、主力品種の「ふじ」の収穫が始まり、リンゴ狩りにぎわうこと

でしょう。

さて、真田氏の人気は相変わらず高く、史跡を訪ねられている方を多く見受けられます。今年には新たに案内標識の設置、マップもつくられました。「ゆきむら夢工房」の観光用のトイレも建築が始まります。

今年初めての試みとして、6月1日から8月31日までの土・日曜日に観光スポットを大型タクシーでめぐる「真田三代ゆかりの地周遊ツアー」が運行されました。私も乗ってみました。2時間で4か所回り、ドライバーがガイドをして、おまけに500円の参加費でお土産もいただきました。アンケート結果も好評だったようです。今後も真田氏に限らず市やタクシー会社が観光タクシーを利用した企画を積極的に行うよう議会でも提案しました。

また、今年10月1日から運賃低減バスの実証運行が始まりました。路線バスの市内の乗降なら1乗車当たり上限300円から500円です。真田地域でいえば上田駅から真田や萩までが300円。菅平まで500円です。上田市ではすべての路線バスが赤字路線となり、廃止路線代替バスとして維持のために赤字分を補てんし、24年度は1億1千万円支出されています。「どうせお金を使うなら運賃を下げて、多くの方にのっていただきたい。」という逆転の発想で始まりました。全国でも京丹後市、八戸市に続いて3番目の取り組みです。京丹

後市では市長の「700円で二人乗せるより、200円で7人乗せる方がよい。」という考え方で取り組み、乗客数が増えて市の赤字補てん分が減ったということで、私は23年3月議会でのこの施策を紹介しました。上田市では3年間の実証運行で1、5倍の乗客数をめざしています。この画期的な取り組みはぜひ成功させたいものです。私も10月1日に3000円の回数券を購入しましたが終わってしまい、2冊目です。また、公共交通空白地域だった赤井方面に何十年ぶりに「お屋敷公園線」として路線バス運行が始まり、地域の方や観光客にも喜ばれています。会員の皆さんも帰郷の折にはぜひバスをご利用ください。

最後になりましたが、皆様にはますますお元気で、ご活躍されますよう心からお祈り申し上げます。

ふるさとから

上田市議会議員

三井 和哉

5月に開催されました「第26回定期総会」の際には、大変お世話になりました。

1年ぶりの懐かしいお顔、そしてこの日を待っていて下さった方々にお会いでき、楽しい時を過ごしました。

総会のご挨拶で石黒副市長が述べられましたが、この8月から、上

田―池袋間を走る定期高速バスに、上田市をPRするラッピングバスが登場しました。

車体右側は上田城櫓門と桜、背面は幸村公の赤備えの鎧兜と櫓、グロットと回って左側は真田三代の鎧兜と青空、そしてどの面にも大きな六文銭と「真田三代の郷 信州上田」と大書してあり、非常に目を引く作りとなっております。高速道路上また首都圏で、上田市を強力にPRする効果が期待できます。(写真：37頁)



都内で見かけられましたら、一時ふるさと真田に想いをはせていただければ幸いです。

さて、上田市議会は、一昨年から市内9カ所で議会報告会を開いています。

今年で3回目となりますが、10月21日に開催した真田中央公民館(旧文化会館)では、「上限500円の運賃低減バスはありがたいが、更に歳をとるとバス停まで歩いていられない場合も出てくるので家の近くまで来てくれるデマンドバスを研究してほしい」と

いうご意見や、「国道144号線は上田市街から上ってくると下原交差点で右折車が詰まり、危険な場合がある。重大事故が起こる前に右折レーンを設置するなり、危険回避策をとってほしい」というご要望、また「医療に不安がある」というご意見や「消防団の公務災害補償の充実を」というご要望などが出されました。どれも真田町という地域に根ざしたご意見・ご要望であり、議会として、また担当委員会ごとに検討していく課題となります。

日本ダボスに寄せて

〜上田市議会

の動静

上田市議会事務局長

小山 晃



5月の定期総会には、昨年に続き

てお招きいただきありがとうございました。皆様のお元気で、お変わりないご様子に接しまして何よりでした。温暖化の影響ででしょうか、今年は特に大型台風が頻繁に襲来して、全国で大変な被害が発生いたしました。

9月の台風18号は、関西に大きな被害を及ぼしましたが、上田市内では100ミリを超える雨量があり、三才山トンネルの入り口の土砂崩落など道路や河川に被害が発生した他、床上、床下の浸水が18件発生しました。また、10月に伊豆大島で大規模な土砂災害を起こした台風26号では、強風により市内の小学校の屋根が破損した他、農業用ハウスが転倒するなどの建物被害が発生しました。幸い、その後の27号、28号は本州に上陸せず、市内に大きな被害はありませんでしたが、これからはゲリラ豪雨や台風に向けての対策がより重要です。

市議会の様子ですが、9月の定例会では市議会議員の定数条例の改正が行われました。定数は、31から30に一人減となり、来年3月の市議選から適用となります。これにより平成18年の新市発足時から、2回の改正に伴い合計4人の減となります。また、議会機能強化特別委員会が昨年からの取り組みを進めた議会基本条例については、9月に原案がまとまりました。10月には、市内9箇所で行われた議会

報告会で市民への説明が行なわれ、いただいたご意見を検討して12月の定例会で新条例を制定する運びとなっております。上田市議会基本条例の特徴としては、前文で、わが国における議会制度の先唱者である上田藩士の赤松小三郎氏の先見と改革の志に学び、今に生かすことが記され、また、議会報告会の開催や、請願や陳情を行う方が趣旨説明を行える制度など、上田市議会が実施している議会改革事項などが盛り込まれております。長野県下では、長野市、松本市など7市が既に制定しており、全国的にも制定の動きが広がっております。地方分権の推進により、国から地方自治体への権限委譲が進む中で、地方議会の役割も大きくなっています。

今年の夏、大庭の母の実家に行つたところ、長野県観光振興課が発行した信州四季旅キャンペーンのポスターがありました。ポスターには「真夏の午後(真田町 傍陽大庭)」と題して原田泰治さん制作したリトグラフの絵の中に母の実家も描かれていました。この絵は、上田市が合併5周年記念事業として原田さんに制作を依頼し、昨年1月に創造館で開催された「原田泰治の世界展 in 上田2012」に於いて、合併4市町村の4つの絵の1つとして発表されたものです。他の3作品は、旧上田市の古安會の桜(春)、旧丸子町の生田の雪の風景(冬)、旧武石村の紅葉(秋)と、旧真田町

の夏と併せて上田の四季を表した40号の力作です。作品展では母袋市長も、「故郷のすばらしさを感じてほしいと」お礼を述べ、原田さんも「地元の人なら誰の家か分かる」と話されていました。山里の落ち着いた夏の風景を、皆さんにもご覧頂きたいと思います。(写真↓37頁)

《寄稿》

故郷を偲ぶ

手掛かりに

堀内 泰

(上田市上田原在住)



原稿の依頼を受けてから「さてどんなことを」と考えましたが、なかなか書くことが見つからず時間ばかりが過ぎてしまいました。そこで「書くことを書いて見るしかない」と思って書いたのがこの一文です。古代の真田町地域一帯は、山家郷(やまがのこう)と呼ばれていました。それが中世には、芳比之郷(ほうひの

こう・傍陽地区と横尾)・甲石之郷(かぶといし)のこう・横尾を除く長地区)・原之郷(はらのこう・本原地区)の三つの郷に分かれました。近世の初頭、芳比之郷は洗馬曲尾村(洗馬村とも)と横尾村に分かれました。そしてさらに近世前期に洗馬曲尾村は上洗馬・曲尾・軽井沢、甲石之郷は真田・横沢・大日向、原之郷は上原・中原・下原と、それぞれが三つの村に分かれ、横尾村を含め十か村になりました。これが、かつて「洗馬組十か村」と呼ばれた村々成立の概略です。

明治七年(一八七四)には、上洗馬村・曲尾村・軽井沢村が合併して傍陽村に、上原村・中原村・下原村が合併して本原村になりました。明治九年(一八七六)には、真田村・横沢村・大日向村・横尾村が合併して長村になりました。時が流れ昭和三十三年(一九五八)には長村・傍陽村・本原村が合併して真田町が成立しました。合併の際には「真田町」と町名が決められたのは「真田日本一の兵(ひのものいちのつわもの)、古(いにしえ)よりの物語にもこれ無き由」と天下にその名をはせた真田氏の発祥の郷に因んでのことです。平成十六年(二〇〇六)の上田市・真田町・丸子町・武石村の合併に際し、上田市真田町と「真田」の町名を残したのも、この様な歴史を踏まえた町民の熱い思いがあつてのことには他なりません。

もう気づかれた方もおいでかと思ひますが「傍陽(そえひ)」と言う

地名は、古代の芳比之郷の「ほうひ」に「傍陽」の文字を当て「そえひ」と読ませる様にしたもののなのです。筆者は村の古老から、「傍陽村」の名付けの親は金繩小学校(かなづな)がっこう・傍陽小学校の前身の訓導であつた相馬安次郎先生であると聞いて育ちました。陽光のふりそそぐ暖かな村をイメージしての命名であつたと思われまふ。傍陽小学校の前庭の一隅には、相馬先生の頌徳碑がひっそりと建っています。暇を見つければ、碑文の解説に挑戦してみてもよろしいかと思ひます。

長村は長い村に、水田の広がる豊かな村をイメージし、人の上に立つ優れた人物が現れることを願つての命名と思われまふ。事実、昭和四十年(一九六五)発行の「長村誌」には、東西に長い村であること、長(おき)は上に立つて統率をする人の意味を持つてゐることなどが決めでとなつたと言ふ趣旨のことが書かれていました。なお、真田区には、甲石之郷の名前の元になつた大きな岩「甲石(かぶといし)」があります。現地に立つて見るとなるほどどうなすける良い形の岩です。

真田昌幸が上田城の築城と城下町の整備に際し、原之郷から住民を移住させてつくつたのが原町であつたと言ひます。もともと「原」と言う地名からは明るく広々とした大地がイメージされます。明治時代になり本原村としたのは、上田城下町の中心「原町」の元になつた村である

からなのでしよう。本原には町内唯一の長者伝説「藪谷(やぶや)長者と子婦(こあし)」の話も残されています。概略を紹介すると「中原の広山寺の付近に藪谷長者と言う者が住んでいた。その家には小婦じと言う娘が下女として仕えていたが、この娘は大変信心深かつた。毎日お昼になると外で働く使用人たちにお弁当を届けるのが小婦じの仕事になつていたが、小婦じはいつも近くにある延命地藏様にお参りしてか行つた。この様な小婦じの行動を怪しんだ長者はある日問い詰めたあげく、真つ赤に焼けた火箸を小婦じの顔に押し当ててしまつた。暫くして、冷静になつた長者が小婦じを見ると顔の傷はなくなつており、いつもの様に立ち働いていた。不思議に思つた長者が地藏堂に行つてみると、地藏様のお顔に大きな火傷の痕が残つていた。自らの行いを深く悔いた長者は、使用人や召使いばかりでなく村人に対しても優しく思いやりのある人になつた」となる。先日、久しぶりに延命地藏様と小婦じを祀つた塚「小婦じ塚」に行つてみましたが、こゝも訪れることをお勧めしたいスポットの一つです。とりとめのない文章になつてしまいましたが、それぞれの地で御活躍の皆様が故郷を偲ぶ手掛かりにしたいだければ幸いです。又、帰省された際などの町歩きの参考にしたいだけならとも思ひます。

真田まつり

に参加して

顧問 中島 正江

(戸沢出身)



真夏の暑さの中、久しぶりに参加させて頂くため、東京駅より上田へ、駅の中は40℃を超していたでしょう。夏休み中でもあり構内は人で大変混雑していて、切符をはやく手に入れておけば良かったと思います。購入に手間どり20分近くもかかってしまい、思っていた特急に乗れず、次のをと思って飛び乗ったら軽井沢へ上田停車なして大慌て、上田駅には深町さんが待っていて下さるので気が気ではなく、40分も遅れてしまい申し訳なく恐縮。真田地域センターでは12時から式典が済んでしまうと来賓の皆様お忙しいのか三三五五解散してしまい、本部テントの中はガラんと置いて身の置き所に困りました。夜の火花まで6〜7時間あり、あれこ

れしている内に、東京真田町の会の堀内幸さん家族、古市礼子さん家族等が訪れてくれましたのでほっとしました。

でも夜の火花の時間まで何時間もあつたので、前のふれあい真田館でお昼を食べ、お昼寝をして、夜の火花には深町さんとは交互で参加することになり、東京へ帰ろうと思っていましたら、三井芳郎さん、謙さんご夫妻が三井宅に泊まっていたようにとのお誘いを受け、お迎えに来て下さり、お泊りすることになり、昔話にしばし浸りました。

翌朝は三井さんのお庭から烏帽子岳の素晴らしい眺めを楽しむことができました。そして三井芳郎さんの一代記、そして奥様・謙さんの「私の歩んだ道」と読ませて頂き、本当にこんな事があつたのかと号泣してしまいました。満州からの引き上げの話などもテレビなどで聞いておりましたが、まさかこんなに身近な方がおられるなんて…と思い少し書かせて頂きます。

奥様小学校3年の春の昭和17年4月15日、満州に行く事になりましたが、その理由は姉さんに聞いた話ですとお父さんの弟さんが大門村の村長さんで国策を受けて渡満される事になった時に、お父さんも5人の子供が皆女で、男の子がいなくてお国のためにならずと常々心を痛めていたという事で渡満を決意されたそうです。その頃は東大東戦争が激しくなり、村の

青年はほとんど兵隊に志召、国民服に千人針をもらい「勝つてくるぞと勇ましく、誓つて国を出たからは…」と日の丸の旗を振られ送り出された。

お父様は北御牧村の研究施設でリーダー研修を終え希望に燃えて、10年計画で日本に帰ってくる予定で出発、家族全員で記念写真を写して村人たちに見送られ、奥様は3年生なので訳も分からずはしゃいでいたそうです。そして敦賀につき、4人に日本人形を買ってもらい、お人形さんの歌を歌いながら船に乗り、満州国東南省の開拓団に到着、両親にとつてはお国の為とはいえ、命がけの強い決断をしたと思いだつたでしょうと…

満州での生活は大変、開拓ですから、電気もなくランプでの生活、日本の軍馬として使われていた馬、病気でしたがお父様が必死で助け、元氣を取り戻して良く働いてくれたそうです。

生活も少し楽になり、学校にも通うことになり、しばし平和な日が続いていたのもつかの間、ソ連軍の参戦、昭和20年8月9日夕暮れ、ボン、ドカーン、ボンと響く音、外に出てみると火の玉、空が真っ赤、胸がどきどき、もう死んでしまうのかと恐怖、国境近くの開拓団の人々は急なソ連軍の参戦で逃げる余裕がなく全員自決したそうです。

三井さんの団は国境から離れていたのに逃げることが出来た。でも三井謙さん(奥様)はその日、大腸

カタルで学校も長期欠席してたので、生きて逃げられるかと不安、馬(美山)ともう1頭の2頭の馬の頭をなで首を撫で別れを告げると、馬も状況が分かつたのでしよう、大きな目から涙を流し悲しい目をしたそうです。

お父さんは全体の任務があるから、これから先のことは全く分からない、皆元気でと家族で水杯で別れ、母と子供達は汽車に乗った。その時飛行機が来て、次から次へと、爆弾がパラパラと落ちて来た。誰かが汽車にもぐれと、次々と来て下敷きになり死ぬかと思つた由、泣き声、叫び声、悲鳴…一時にして地獄となり凄まじい情景、汽車は草原に逃げ、「両手の親指で耳をふさぎ、他の指で目を押さえて伏せるように」、私も長村小学校登校中等、田んぼの溝にこのような事をした。なぜこの動作かと思つていましたが、今分かります。爆音で耳が聞こえなくなるといけないし、目を押さえて飛び出さないようにしたとの事でした。

この時お母様とはぐれてしまい、必死で探したが見つけないことだ出来ず、又お母様も子供たちを必死で探したが見つからない。

汽車が動き出したので必死に「乗せて！」と叫んだが2人のために止まってくれる筈がなく、線路伝いに行けば家のある所に着くだろうとお姉さんが言うのでついて行った。

途中水を飲みたくなり、お姉さんが

草の下に赤錆が浮いているのを手で少し寄せて飲ませてくれ、どうなる事かと心配だったが、体が少し元気になって、お腹がすいても食べるものがないので、野草など食べられそうなものはすべて食べた。でも途中で或るところでお父さんと会えた。それからも道々、とてもこれ以上書けません。「どうぞ成仏してください」と手を合わせながら：「まだ息のある方もいたそうですが：とても悲しいです。」

一冬過ぎて日本への引揚げ船に乗り、九州の島が見えた時、皆で「万歳！」と歓声、誰彼となく抱き合い手を握り喜び合いました。佐世保港につきお父様の情報で、お母様が横須賀の病院でお姉さんと一緒に療養しているそうですと聞き、お会い出来た時、言葉にならず手を握りしめて喜び合った：

両親やお姉さまたちも死に物狂いで帰ってきているので、家族が集まった時でも、満州での話は誰も口にするとはなかったそうです。

本を読んでしばし呆然、何んと云ったらよいのか、言葉も出ませんでした。その間、奥様は私にお土産をとジャガイモを掘ったり、きゅうり、トマト、ピーマン、茄子などを段ボールに詰め、出来たよ、って：私にわれに返りました。

帰る時、京都まで歩いて行かれたお兄様、修行して高僧になられた、等お位牌の皆様を手を合わせ、感謝をして帰ろうとした時、奥様よ

りこれ見て行つてと奥座敷へ、そこには又見たこともない特攻隊に旅立ったお兄様の遺書(実筆)：「出撃前に2、3日暇をもらい、両親様にお別れの挨拶に帰つてこられ、何もなかったように実家で過ごし、では皆さんお元気でと帰られた後、布団の下に遺書が置かれてあったそうです。」

文面はお父様、お母様、今迄有難うございました。自分はお国の為に立派に戦つてまいります。どうぞお健やかに過ごしてください。というようなことが書かれてありました。昭和20年6月。もう少しで終戦でしたのにな。

これを見たり聞いたりすると嫌ですね。子供と別れる、又親と別れる、とても胸が痛みます。日本もずっと平和でありますようにと祈らずにはいられません。

最後に奥様はせつかく生きて帰ってきたので、この体の続く限り皆様のお役に立ちたいと、特養ホーム、デイホームそして看護師として、ケアマネージャーとして後進の指導に積極的に参加されて、ボランティアとして毎日忙しくして居られます。頭が下がる思いです。どうぞお体に気を付けられて何時までも老人の方々と楽しくお食事もして下さい。私のこの夏は大変な経験でした。真田町のまつりに参加して、こんな思い、経験、とても勉強になりました。(このお話は三井家の許可を受けております。)

「二つの戸沢」

戸沢出身 柳沢 郁政

郷里の兄から「戸沢」という冊子が送られて来た。これは昨年、戸沢魅力アップ事業委員会が発刊したA5版137ページの本で、委員を中心にして区民の協力で集めた事だ。写真等で編集されていて郷土への思いを深め活力につなげて行こうとする意気込みが伝わって来ます。特に私が興味を引いたのは「戸沢の語源？」の項です。「戸沢白雲翁という猿飛佐助や霧隠才藏のお師匠さんで忍術の神様みたいな人が戸沢の裏山に住んでいた」と言う伝説を聞



いたことがある」とアンケートに有りましたが、これは大正時代の小説からのものかと思われま。しかし、他にも不思議な記述がありました。「山と神川の狭い場所の住居地で、

水田はわずかで畑地耕作に頼らざるを得なかった。道路や架橋工事まで地元請負をしていた事例が多く技術や知識に優れた人物が大勢いた事が推測される。また行屋と呼ばれる4帖半程の小屋が3カ所にある。火の無いところに煙はたたず、やはり戸沢は忍者部落で有ったのでしょうか。

私の調べではそれに近い存在の可能性があると考えています。私は高校同級生とゴルフに山梨の都留市によく行きますが、ある事に気づきました。ここに「戸沢」という地名が有り広い地域を占めていて世帯数も多く、江戸時代には戸沢村と言っていたとの事です。都留市は大月の南側の山間部に有る小さい町ですが、最近はりニア実験線の車両基地があり有名に成った所で。そこに「戸沢」と言う地名がある事を知った時、真田戸沢と都留戸沢は何か関連が有るのではないかと、他府県で有ったなら問題にもいせんが、甲斐と真田の事でありました。とつさに考えたのは移住が有ったのではないかと思ひ、ここ10年来ゴルフの帰りに都留博物館を訪ね、資料探しも試みたが「二つの戸沢」の点と点を結び付ける「線」は見つかりませんでした。ところが今年に入つて「有力な線」をつかむ事が出来たのです。

地元でも反響があった様ですが「真田三代ミステリー」が山田順子

氏により出版されました。山田氏は時代考証家であり真田町に住み込み現地を歩き調べ真田一族の史書、伝承、遺跡、地形などから新たな発見や解釈を見つけたにしているのです。特筆すべき内容は真田氏が台頭した理由は松代、上州、大笹街道の幹線道路の交差点に郷が有ったからだ、四日市は小県郡の中心地だった。「砥石城崩れ」で武田信玄が村上義清に大敗した翌年に真田幸隆が砥石城を落城させる大手柄を武田氏にもたらしました。これは幸隆が曲尾氏を武田側に引き入れた為、坂城から入軽井沢を通り砥石城に至る補給路が絶たれたからだとしています。また真田本城築城と、御屋敷への中原の上州街道から分かれた縦道1kmは真田信綱が信玄の甲府城下町をまねた理想の町づくりで有ったと推理しています。

私がつも注目したのは砥石城の戦後の部分で幸隆が戦前に武田信玄と約束していたにも関わらず、すぐには砥石城主には成らなかつた事です。なんと落城した当初は信玄の重臣の小山田昌辰が城代として駐留し幸隆はその配下の武将として指揮を受けていたのです。「真田町誌」を再度見直すと詳しく書かれていて信玄から小山田氏へ指示書が届き「その方から真田へ連絡するように」との命令が出されています。実は武田氏には小山田姓の重臣が二人いました。都留市博物館資料「武田家の再興、小山田了三著」

によると一人は小山田信茂と言います。都留勝山城の城主で本流であり、もう一人の小山田昌辰は武田信玄からの要請によって分家して膝元の領主になったと言います。都留戸沢に關係する武将なのです。昌辰は城攻めの達人として信玄に信頼されていて、次への戦略を考えての城主に任命されたと思われまます。砥石戦2年後には川中島合戦に移行するが命令に従い真田幸隆は地蔵峠を越え松代へ進出し尼飾城を攻略し守備に当たっている。続いて北進侵攻の最前線の要塞として海津城（松代城）の造営に掛かるが、小山田氏は甲府の領地から築城、河川治水工事の技術者で現代の建設会社なら設計者、工事所長ら呼び寄せ、山本勘助の縄張りである幸隆は真田郷から人々の動員をはかつて工事に当たった事であろう。当時の築城、治水工事のノウハウは甲斐が先進国で、すでに甲府城下町は整備され笛吹川の治水がなされていました。

たとえ小山田氏の地元には施された信玄堤は甲府市の西に位置する笛吹川支流で見られる治水工法で当時としては画期的なものでした。急流の暴れ川であった御勅使川（みだいかわ）の中央部に巨石組を築き水流を二分し流れを弱め、その水が釜無川と合流するところに石組を築き、水流をぶつけて水勢をそいで順流させる方法をとっている。その合流点から下流には1800mに渡り堅固な堤防を築いて樹木を植えています。現在でも河川工法の手本にされているのですが、さらにすごいのは堤防の維持管理のための技術者集団の移住をはかっているのです。現在の甲斐市に「竜王河原宿」として存在し短冊型地割の町を形成されています。出身の郷村別に列挙された移住者の名簿が竜王村（旧）の史料にあり、水難祈願の祭りは現在に至るまで続いています。小山田氏は、この「竜王河原宿」から技術陣を真田郷へ移住をはかり、その移住地に自分の出身地である都留の戸沢村と同じ「戸沢」の地名を付けたと推測されます。海津城は完成までに8年を要しています。千曲川の河川敷での平城の造営でしたから土塁、石垣、橋梁工事が主で河川土木技能者が力を発揮した事でしょう。甲府から松代へは150kmの距離があるので真田郷から地蔵峠を越えるのが、もともと近く安全なルートで戸沢は妻子を伴う移住地としては考え尽くされた場所だったと思われまます。

やがて小山田氏と交代して砥石城主に真田幸隆が着くが戸沢には当然、偵察情報の任務を持った佐助、才藏のような人達の出入りが有ったかも知れません。小屋の「行屋」はグループの寄合、結束のために使った可能性が有ります。1551年の幸隆の砥石城攻略から、川中島合戦、上州への進出があり1575年の長篠合戦で信綱戦死までの24年間に真田郷では大きい土木工事が続いている行われています。幸隆は海津城の他に吉田堰の大改修を行ない、古代には四日市で神川から取水していたが上流の戸沢での取水位置に変え、石舟、荒井の水路には堅牢な野積石垣の河川技術が見られます。信綱の真田本城造営、御屋敷と中原までの城下町造りは真田郷では初めての大工事で真田氏の技術だけでは成し得なかつたと思うのです。また真田軍の戦術には伝統的に河川、田地が巧みに織り込まれています。真田昌幸は徳川との神川合戦では敵軍を田地に追込み分断し、神川を堰き止め渡河時に放流して戦果を上げています。真田幸村は大阪冬の陣で真田丸を築き海津城の丸馬出の技法を組込み、堀の中には畦状に仕切りを付けています。こんな事を郷里に語り話すと、ある情報も寄せられました。信綱寺里門の東側に古城（打越城跡）があります。ここは昔から戸沢の宮島家の方々が維持に当たり御先祖祭祀をやっている所でも有ります。

その一郭に古い墓石が有りますが、そこから読み取れる名字は都留戸沢でもっとも多いものなのです。また「竜王河原宿」の名簿史料にある人名が信綱寺の過去帳に確認が出来れば確証が得られると考えられています。

「ふるさと」

訪問旅行

理事 花岡 孝雄

(横尾出身)



毎年行われている「ふるさと旅行」が、十一月十日～十一日に実施されました。会員の参加者は、二二名でしたが、地元から私の中学校同級生の山本包幸さんにも参加して頂き総勢二三名となりました。

初日は、大宮駅集合で、九時出発でお願いしていたところ、七時四十分頃、茨城県南部を震源とする、震度5の地震が発生した。そのため、首都圏の電車がストップして、参加者の多くの方が足止めとなり、出発が大幅に遅れてしまいました。その旨、お世話になる真田町自治センターの林主査に連絡したところ、真田町は、風と雨で大荒れの天気とのことで、先行き不安の出発となりました。

その後、バスは順調に進み、碓氷峠

にさしかかると、目に沁みる紅葉が私達を迎えてくれました。碓井トンネルを抜けると、車窓一杯に広がる信州の雄大な山々の紅葉に、心を洗われながら、最初の目的地である上田城に到着しました。丁度、上田城櫓祭りで、多くの観光客で賑わっていました。地元ボランティアの案内で上田城を見学しました。改めて真田武士の勇姿を認識して、真田町に生まれたことに誇りを感じたところです。上田城を後にするころ雨が降り出しホッとしました。

次に新築された傍陽小学校の見学でした。小学校では、地元の堀内唯行さんの建設までのお話と、児玉校長先生からの説明と案内で、各教室を見学しました。教室や廊下には子供達の作品が数多く展示されており、私達が学んだ当時と比較すると、相当レベルの高い作品だと感じました。又、充実した施設には只々ビックリするのみでした。参加者の口から漏れる言葉は「こんな立派な環境だったらもつと勉強して、優秀な成績を修めたのに」でした。今の子供達は、恵まれた中で育てられていることを実感しました。

小学生諸君は、ゲームなどに夢中にならず信州の自然を相手におおいに体を動かし、又、新しい校舎で勉学に励んで下さい。

引き続き、真田町図書館を見学しました。小暮さんの案内で館内を見学することが出来ました。真田町の中心に、こんな立派な図書館がある

ことに今まで気が付きませんでした。因に、私の実家の畑が、図書館の周りにあったことを思い出しました。真田町の方々は、この図書館を是非有効に活用してください。

一日目の予定は終了し、鹿教湯温泉の「鹿鳴荘」に無事到着しました。旅館では、温泉に浸り旅の疲れを癒し、楽しい宴会の時間を過ごしました。夕食では山本さんの茸の差し入れがあり、信州の味に舌鼓を打ちながら歓談に花を咲かせ、又、全員が素晴らしい六文銭のバッジを頂きました。

二日目は八時四五分に旅館を出発し、真田町の大松りんご園で、リンゴ狩りを楽しみました。取り立てて新鮮なりんごを味わいながらのりんご狩りでした。続いては、ゆきむら夢工房で蕎麦打ち体験をしました。町の蕎麦打ち名人に手取り足取り教えて頂きながら、蕎麦粉をこねて・のして・切って・茹でて出来上がりました。生まれて初めて自分で打った蕎麦を食べました。味は言うまでもなく最高でした。明日から蕎麦屋を開業出来る位美味しく、楽しい蕎麦打ち体験でした。

二日間真田町に滞在中は、真田地域自治センターの高橋センター長・藤沢センター次長・滝沢課長補佐・林主査には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。林主査には、旅行プラン策定時よりご配慮を頂いたことに対し、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

さて一行は、最終目的地である群馬県富岡市にある官営富岡製糸場に到着しました。製糸場では、今井館長さんの案内で詳しく説明して頂きました。明治政府は、殖産振興のため当時製糸(繭から生糸をとること)技術が進んでいたフランスから技術を導入すべく、繭の大生産地であった富岡に、フランスから運んだ煉瓦で柱は材木と言う和洋折衷の工場を建設し、繰糸機械もフランスから輸入し、最先端の工場を建設した。ここを足場に、全国の武士の子女を集め教育し、技術の普及に努めた。明治五年の煉瓦造りの巨大な建物がそのまま残っており、当時の様子が窺えるようであった。官営富岡製糸場は、来年にも世界遺産に登録される見通うしとのことで多くの見学者がいました。

富岡で予定の見学は終了し、事故もなく全員元気で大宮に到着しました。旅行中雨の心配がありました。が、天気に恵まれ楽しく旅行を終了することが出来ましたことに対し、幹事として、参加者の皆さんに感謝申し上げます。又、来年の旅行には一人でも多くの方の参加をお願いします。会員の皆さん、別の視点でふるさとを訪ねるのも、有意義で楽しいものです。

(同行記者註 官営富岡製糸場の見学では花岡理事の広い人脈が活用され、一般人が入れない場所が見学できたり、5000円の入場料が口ハで済んだり：旅行計画も充実して

いました。花岡さんお世話様でした。」

雑詠

顧問 三井 芳泉〔芳郎〕

〔上田市真田町傍陽大庭在住〕



故郷に帰り、自然の風景や友人と会い、故郷の歴史のグループに入ったり、短歌の会に参加、普段の生活で見たり感じた事を詩にしてみました。

ふるさとの山の谷間を鶯の声
聞きながら更に歩まん

捨てるのは勿体ないと残したる
桐の箆筒は母の想い出

自分史はあるかなきやと冬籠り
床に掛けたる達磨をにらめ

時勢にて修学旅行もあらざれば
古希に集まり伊勢詣でする

足元のワラビのみ見て歩きたり
ようやく着いたゲレンデの上

蜘蛛の巣は幾何学的に張られおり
朝日に光り宝石の如し

髪白く半世紀ぶり会う友と眺める
銀座東京タワー

草刈りに行く先々を逃げて行く
飛ぶ足速き青蛙達

茅ヶ崎の改札くぐり走り来て
孫はとびつき共に喜ぶ

すみれ咲くふるさと公園の滑り台
孫はせわしく疲れもみせず

平和説く法王惜別200万
大聖堂の鐘響く

友人のくれた獲物で牡丹鍋
交わす酒盃に月傾きぬ

芋を掘る肩に止まりて赤トンボ
秋の昼寝を楽しみいるか

学友に色紙貰いて喜寿祝う
米寿めざして更にはげまう

紅葉のテニスコートに三代が
揃いてプレー弁当楽し

朝日射す凍れる実家の座敷にて
七草粥にからだ温む

《寄稿》

今の生活

三井 謙
（三井芳郎顧問夫人）



主人は東京生活五十年私は三十年で真田町の郷里に帰り。もう十年経ちました。環境が変わり私たちは老後の生活を模索して、私たちが帰郷後はとにかく自然がいっぱい、山がきれい、緑がきれい、水がきれい、空気がきれい、感動、感動の毎日でした。

東京で主人は花粉症で毎日テッシュペーパー二箱ぐらい使い鼻を真赤にして苦しんでいました。ところが帰郷してからは目の前に杉の木がたくさんあり黄色い花粉が雲のように飛んでいても平気になり、長年の花粉症ともお別れできて快適になりました。

冬の散歩 春の七草、この冬は比較的暖かな年でした。雪解けの道を健康維持のために中組の堤という所まで歩きました。山道にさしかると、「この先に熊が出る」という看板があり恐ろしくなって急いで

帰りました。川の岸に枯れ草があり氷の玉がキラキラと光りその下を水が流れていました。日当たりのよい所は雪が解け土が見えていました。ハコベ、ナズナが青々と生えているのを見つけ摘んできました。途中かごを背負った老人が杖をついて坂道を降りてきました。籠の中に目をむけると、雪のついたほうれん草が沢山はいつていました、私は思わず「素晴らしいほうれん草ですね」と言うと、「少しもっていきな」と言われました。私は欲しいけれどただでは悪いと思ひ「お金とってください」というと「いらねえわい、早くとりな」と言われ、それでも悪いと思ひぐずぐずしていると、老人は「もうくんね」と怒ったような表情で行ってしまいました。後で考えてみると好意で下さる物は有り難く頂くものと分かり、価値観の相違だと反省しました。

春のおとずれ 枯れ草の野原、畑、田んぼには、何も無いがよくよく枯れ草を分けて見ると小さな芽吹きが見られ、雪解けの水がだんだん増え日陰の石垣には氷柱が残っている頃、日当たりの良い所では福寿草の黄色がさわだつて目立ち、露のとうがあちこちに出ておりつんできて露味噌くりをしました。昔よく祖母が作ってくれた味を頂く。

地域の人達は材料があるので料理上手、その季節に応じた材料で巧みの業で美味しい料理を作ってしまう。私はご馳走になりながら、

老人の手習いで毎日が忙しい。

畑仕事 私の家の前に野原と畑があります。野原には季節を楽しむ桜と桃の木を植え、自然には、二輪草などの野草の数々、セリ、ヨモギ、三つ葉、ノビルなど、ワラビ、コゴミ、路など植えました。春は花見、摘み草を楽しんでいます。孫たちが来るとお茶を飲んだりお弁当を食べたりして楽しんでます。畑は、野菜づくりの講習に通ったり、近所の人に土づくりから習ったり手伝ってもらったりして、やっと我が家の畑にも食べられる野菜ができ、私たちも新鮮な野菜が食べられ、子ども家族にも送れるようになりました。

茸とり 今年はきのこが良く出ると聞き食べるより採りに行つて見たいと思っていました。体力的に心配はありましたが思い切つて、知人に連れて行つてもらおうことにしました。山の散歩は、カモシカはスタイルが良く大きな目で見ているだけで可愛らしいが、イノシシや熊は怖い、散歩に行くと景色より獣との出会いが恐怖で行かれませんでした。知人は主人と私をつれて行くので簡単に行かれる所だと言っていました。が、坂でうまく行かれず生きた木の枝につかまりやつと登りました。時にはつかまった木が枯れていて抜けてしまい尻餅をついてやつと起きあがり怪我はなかったかとチェックしました。林の中に入る

と土の匂い落ち葉を踏みしめる音「ーイオン」がたつぷり思わず深呼吸をしてしまいました。爽快そのものです。茸は毒もあり間違えると大変です。でも茸を見ると思わず嬉しくなり何でも採つてしまいます。休み時間になりチェックしてもらいます。

「これダメ、これダメ、これもダメ」とうとう籠の中が空っぽになりがっかりです。そのうちに様子が分かってきて一本シメジという茸が見つけ出し採れるようになりました。調理の仕方まで教わるので教える人も大変です。松茸とりにも言われましたが、足手まといになり体力的に無理かと思ってお断りしました。山から里をみる眺めは、広い黄金色の田んぼ素晴らしい眺めでした。私は老年になりこんな感動の毎日でもとても幸せだと思つています。

ボランテア活動 私は幸いに健康で先々何時もお世話になるかわからないのでボランテア活動をしています。老人の施設に行くと、みな人生経験豊かな人達ばかり、特に農学博士のような人達が多く、その時期の農作業について質問すると即答してくれ、どなたも得意気に気持ちよく教えてくれます。私の畑仕事にとてもよい参考になっています。ご婦人がたも食品の加工、料理の事、漬物、地域にある行事など教えてくれ大助かりをしています。ご婦人がたも食品の加工、料理の事、漬物、地域にある行事など教える

てくれ大助かりをしています。

最近支えあい運動のモデル事業に参加しました。部落名もよく知らなかった私は、参加して部落名も知り、いろいろの人との触れ合いがありました。皆さん本業の傍らお稽古を熱心にしており、なんと十年、二十年と極めていてびっくりしました。詩を作る人、歌を歌う人、絵を描く人、彫刻をする人、盆栽、自然の花、苔、石、木、つる、など利用して独自の造形で楽しんでいる人、隠れた芸術家のいるのにはびっくりしました。こちらに住み着いて分かったことです。

東京真田町の会 真田町の会は前々より皆さんが集まると、言葉では言い表わせない和やかな雰囲気があります。東京にいた時、毎年ダボスの発送の時は我が家に集まって発送業務をしていました。発送が終わると打ち上げ会です。飲んだり歌ったり一人一人の持ち味をだして楽しみました。楽しかったことが今でも忘れられません。最近のご無沙汰気味になっています。

東京真田町の役員会に出席 役員会が箱根にあるので是非出席をとというお誘いがありました。深町先生が家まで送り迎えをしてくださるとの事、私たち老人にとつては有難いお誘いだだったので主人と私はお言葉に甘えて出席する

ことにしました。先生は私たちのためにプランを立ててくださいました。当日、我が家の庭まで高級車で迎えに来てくだり主人は助手席私は後部座席に、乗り心地良く、ゆったりした気分、先生のご苦勞に感謝しながら出かけました。車内には絶えず歌や話が流れ外の景色を眺めたり退屈しないように気配りをしてくださいました。途中花園までは、東京から何回となく真田町の祖母の所まで通つたので見慣れた景色を色々な事を思い出しながら眺めていました。秩父にさしかかった時、車窓の左側に大きな山が三分の一ぐらい削れて土砂だけの山肌が見えました。なんとも言えない淋しい気持ちになりました。コンクリートにする石の採掘とのこと、産業経済の発展とはいえここまで自然が破壊されるのは、山が泣いているように見えました。長い雁坂トンネルを通り河口湖に着きました。晴天だったので雲ひとつない空に、雄大な富士山がそびえ、世界遺産に選ばれた貫禄を見せていました。道路が河口湖を縦断して水に山に絵に書きたいほどの風景で頭の中にしっかりと刻み込んで通り過ぎました。富士山の広い裾野は紅葉がはじまり、スキの穂が風になびいて秋の訪れを教えてくれました。宿泊の箱根木賀温泉に着きました。

(三三頁一段目に続く)

第二六回定期総会・懇親会の報告

副会長・事務局長 鈴木 邦子

(横尾出身)



平成二十五年五月二十五日アル

カディア市谷 五階の「徳高の間」において第二六回総会・懇親会が開催されました。今年も天気恵まれ、会員四十七名、上田市行政関係から三名、上田市議会から五名、東京上田会から一名、東京丸子会から一名の皆様が御出席賜りました。恒例の「信濃の国」を全員で声高らかに斉唱！ 総会が始まりました。

◎総会

司会 柴田小夜子 副会長

只今より第二六回総会を始めます。会長の山口様ご挨拶を願います。

〔山口会長挨拶の概要〕

皆さんこんにちは！本日は東京真田町の会第二六回総会に大勢の皆様に参加を頂き有難うございました。上田市からは副市長様・真田地域自治センター次長様・政策係の

林様・上田市議会からは、議長様、副議長様・議員の先生方・事務局長様・また私達兄弟会でもある、東京上田会副会長様・東京丸子会会長様にご出席賜りました。後ほど 御一人お一人 ご紹介させて頂きます。本日はご多忙の中本当にありがとうございます。

懇親会では「梅笑一門の皆様」「江戸芸かっぱれ」をボランティアでご出演頂くことになっておりますのでお楽しみください。

なお、お詫びですが、三月末発行の「しらかば通信」ですが総会の開始時刻を間違えており大変ご迷惑をおかけした事をお詫び申し上げます。

この一年色々な事がありました。安倍のミクスだとか、憲法九十六条の改正の動きやら、消費税増税だとか、いずれにしても私達だけでなく子孫孫まで影響の出る可能性があります。一人ひとりが良く考える必要があると思います。

東京真田町の会では、昨年の会員旅行では真田地域自治センター長様・次長様始め職員の方々に変化をお世話になりました。十二月発行の「日本ダボス」の中で清水副議長様

が年間行事をご紹介して下さい。是非来てくださいとの事でした。今年も何とかその行事に合わせた地域の皆さんとの交流を密にしたいと考え旅行担当の花岡理事が苦心しながら計画している所で御座います。どうかご協力下さるようお願いいたします。

もう一つ新しい企画として、会員の増加をめざして真田中学校の第一期生から五期生までですが、関東準備委員会と言うものを立ち上げて、初回では東京スカイツリーはとバスツアーをと呼びかけ、二十名の参加者がありました。次回を近いうちに何らかの形で呼びかけをしたいと思っておりますが、なかなか幹事が多忙な為もありまだ未定ですが色々試みております。どうか皆様ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔上田市副市長石黒 豊様

のご挨拶概要〕

皆さんこんにちは！「そう言われれば何度か雨にあつたなあー」と思ひ出している所で御座います。

只今ご紹介頂きました、石黒で御座います。

本日の総会には市長が参りご挨拶申し上げます。またまた公務と重なりまして、私の方から一言ご挨拶申し上げます。先ずは平成二十五年度 第二十六

回と言う事ですが総会が盛大に開催されましたこと、誠におめでとうございませう。またお招きいただきしたこと、厚く御礼申し上げますと共に日頃から東京真田町の会の皆さんには、故郷の市政に暖かいご理解とご協力をいただきまして重ねて感謝申し上げます。

それでは折角の機会でございますので、若干資料等もありますので故郷上田或いは真田地域の様子をお話したいと思ひます。(以下資料に基づきご説明を頂きました)

一、真田公民館大ホールの照明が暗いと言う事で照明の改修事業を行いました。会議やイベントの開催等で利用が増えている為照度を向上する照明器具と操作しやすい調光設備により利便性が向上され、どう活用されて行くかと言うところで御座います。

一、上田バスの赤いマイクロバスですが曲尾出身の、海瀬香里さんのデザインで新しく誕生いたしました。大型バスですが、十月一日からですが上田から菅平まで、五〇〇円で利用できる事で、私も伊勢山ですのでも乗りますが是非皆さんもお帰りの際はバスに乗って頂いて(地元の方からは可なり抵抗があるので)成功させたいと思ひます。

一、交流文化施設ですが現在着々と進んでおり、来年の三月完成の予定ですが皆さんがお盆に帰省頂くころは、形だけは出来ております。これも運営上大きな課題を抱えて

おりますが、何はともあれ十月二日には竣工式をやりたいと進めております。

一、ラグビーワールドカップが二〇一九年に日本で開催されると言うことで是非菅平でせめて合宿だけでも進めています。後程、尾島議長からお話があるかとおもいますが、これまでも真田町の会の皆さんにはお世話に成っておりますがこれも実現できるような色々とお付き合い宜しく願います。簡単ではございますが、あいさつに代えさせていただきます。

柴田理事 「次に議事に入らさせていただきます。

〔議事〕

- 一、会務報告及び会計報告
 - 一、平成二十四年度会計監査報告
 - 一、平成二十五年度事業計画及び予算の決定
- 以上原案通り全員一致で承認されました。

(お知らせ)

深町理事→ホームページですが、半年程中途半端にしておりましたが、時間が取れるよになりましたので内容の充実したものにしたいと思っております。

「東京真田町の会」で検索してもらえば簡単にアクセス出来ますので大いに活用してください。

山口会長→来年の、二十七回総会ですが、平成二十六年五月二十五日

(日曜日)ですので、大勢参加して頂きたく宜しくお願い致します。

柴田理事 「以上で総会を終わらせて頂きます

〔懇親会〕

少し時間が早くなっておりますが、これより懇親会を始めます

歓迎の挨拶 深町共栄理事

第二十六回東京真田町の会総会にご出席賜り誠に有難うござい

上田市からは副市長さん、真田地域自治センターからは議長さん、林さん上田市議会からは議長さん、副議長さん、議員の皆様、事務局長様そして東京上田会の副会長様、東京丸子会の会長様、皆様本日はお忙しい中ご参加いただきまして、心から感謝申し上げます。そして、会員の皆様、今回は昨年を上回る大勢の方々に参加して頂き理事一同大変うれしくおもっております。

本日は梅笑流の「江戸芸かっぽれ」も演じていただきますのでどうか、ごゆっくりご歓談頂きたいと思

います。簡単で御座いますが、歓迎の挨拶と致します。

来賓のご紹介 金子誠理事

上田市政関係の方からご紹介いたします。

上田市副市長 石黒 豊 様
真田地域自治センター次長

藤沢 久雄 様

私たちの直接窓口に成っております、自治センター政策係の

上田市議会関係の方々をご紹介

上田市議会議員

尾島 勝 様

上田市議会副議長

清水 俊治 様

上田市議会議員

古市 順子 様

三井 和哉 様

上田市議会事務局長

小山 晃 様

在京他会の関係の方をご紹介いたします

東京上田会副会長

高橋 清子 様

東京丸子会会長

土屋 博 様

以上ご紹介を終わります

来賓祝辞

上田市議会議員 尾島 勝 様

東京真田町の皆さんこんにち

は!

本日は、清水副議長・古市環境建設副委員長そして、三井厚生委員長

の四人でお邪魔いたしました市議を代表してご挨拶を申し上げます。

本日は大勢お集まりの中、総会が盛大に開かれました事をお祝い申し上げます。おめでとうございます。

さて、傍陽の方も来ていると思

ますが、五月十五日に傍陽小学校の竣工式が行われました。素晴らしい校舎に成りました。その隣に詰所が、去年完成しました。詰所の土台の銀色と桜の色ですが校舎と同じ色で、自然の中に、マツチングして桃色

きれいに映えています。実相院の丁度下にありますので郷里に帰りましたら是非見て頂きたいです。

次に、春の香りと言うことで少しお話したいのですが、丁度今皆さんが帰りますと、山菜、たらの芽・こしあぶら等美味しい物が沢山食べられます。また、皆さんを歓迎するために、お屋敷跡ではつじの花が満開です。是非、電車賃とバス代を使って頂いて真田へお越し頂きたいと思

います。先ほど副市長から、ワールドカップのお話がありました。九月二十三日、商工会議所でキャンプ地誘致の会を立ち上げました。試合は二〇一九年ですが、十五年には

試合会場が決定し十六年にはキャンプ地が決定すると言う事です。上田市全域の皆さんが、武石から真田まで一つになりピール

して参ります。今日お集まりの皆さんの中に、スポーツに関係のある方がおりましたら、是非情報を貰いたいと思ひ参上いたしました。

次に議会から、議長として議会改革を進めておりますので若干触れさせていただきます。二年前から市民の皆さんに議会を分つて貰うため報告会を上田市内全域に九か所において一〇人ぐらいですが設けました。御蔭さんで当初は四〇〇名位集まりました。

また、昨年も四〇〇名の皆さんに来て頂き非常に順調に来ております。今年も一〇月頃報告会をしたいと考えております。が今までは、A4の用紙一枚に要望書として提出して貰い、審査によって決めていたが、趣旨説明制度を設け三月からは内容をお聞きする形で審査を充実して行きたいと思ひ進めております。五月の頭だったと思ひますが（間違っていたらごめんない）市議会日よりと、ホームページを議会で作り市民の皆さんの意見を基に改善し関心を持って貰う「たより」にしたリホームページにして参りました。

この秋からになるかと思ひますが、中学生にも関心を持って貰うよう校長を交えて議会を傍聴して貰うと言う事も計画しております。また基本条例を、清水副議長始め三井議員も関わっており今年の十二月を目途に完成する様進めております。

これまでが議会のだいたいの流れ

でございますが結びにしたいと思ひます。東京真田町の会の増々のご繁栄、そして今日お集まりの皆さんがご多幸で、ザーと長生きして頂きたいと、ご健康を祈念申し上げ挨拶と致します。

東京上田会副会長

高橋 清子 様

皆様 こんにちは！ 第二六回東京真田町の会総会にお招きいただきまして本当にありがとうございます。

私は行政の皆さん、副市長さんや議長さんが、故郷のご報告がございましたが、私は在京しておりましたので何の報告も御座いませぬ、ですが真田町と言うのは、私が高校を卒業しましたのが、昭和二九年ですが、その時は真田町は遥か遠い所と思つておりましたので一度も行つた事がございませんでした。

三年前上田会で真田町の方へお邪魔させていただきましたまして、上田の千本桜は散っていましたのに、真田の方は桜が丁度満開だったんですね、凄く素敵なお所だと、初めてこの年に成りまして、その時実感いたしました。本当に素晴らしい所です。これからも時間が取れましたら、また上田会の有志でお伺いさせていただきますと思ひます。

これは宣伝に成りますけれども、ここに伺いましたら、上田会の会員の方も何人かお見えになつていて



ほっと致しました。で、一年に一回、上田会の集いの会があるんですけども、今年はまだまた実行委員長になりまして約二〇〇名位のご参加を頂いております。皆様もどうぞお時間がございましたら、その時においでください。様々心からお待ち申し上げます。

本日は本当にありがとうございます。増々の真田町の会のご発展と皆様方のご健康を祈念申し上げます。皆様方のご挨拶とさせていただきます。本日は本当に有難うございました。

乾杯の挨拶
会員の柳沢 實様

皆さんどうもしばらくでございました！

今日は皆さんの笑顔にお会いしたくて、また、山ほどお話をしたくて、其れよりも、何よりもこの会場に流れる故郷のムードを体一杯触れたくてやって参りました。

後程この場が宴に変わりましたら、ビールを片手に皆様のお席に是非ご機嫌伺いに参りますから、故郷の皆さんからは田舎の話を、会場の皆さんからは近況をお聞かせ頂ければ私にとりまして、今日と言う日はこれ以上の事は御座いません。それでは乾杯を行います。乾杯！

会場の皆さん、それぞれお酒を酌み交わし和気あいあいの中、梅笑一門の皆さんが、江戸芸かつぱれ、を

演じて下さり、会場いっぱい花を咲かせて下さいました。お酒も進み盛り上がり、また会員の、飯嶋 啓三様、八木 五郎様カラオケでな お一層その場を盛り上げて下さいました。

最後に成ってしまいましたが、今年も上田市から沢山のお土産「りんご」を頂き、例によりジャンケンで勝ち抜き戦が始まり大賑わいでした。

市長様始め上田市の皆様から感謝申し上げます。本当に有難うございました。

そして、遠い所お越しいただきお疲れ様で御座いました。有難うございました。

☆ 総会出席会員名簿

(敬称略・順不同)

長

- 岩崎みち子(菅平・正木)
- 大久保あき子(菅平・川上)
- 大橋けさ子(菅平・やまもと)
- 荻原 啓治(四日市)
- 川上 年美(菅平・宮崎)
- 椎名巳津男(横沢・山口)
- 塩沢 和政(大日向)
- 塩沢 春江
- 篠崎 さく(大日向・大久保)
- 柴田小夜子(菅平・市村)
- 鈴木 邦子(横尾)
- 中島 正江(戸沢・関谷)
- 花岡 孝雄(横尾)
- 原田 好幸(横尾・山崎)
- 山口 元彦(横沢)



傍陽

- 飯島 啓三(中組)
- 井上かつよ(田中・堀内)
- 内海 章緒(大庭)
- 海瀬 弘司(曲尾)
- 金子 誠(田中)
- 小林 孝雄(曲尾)
- 小林 正子(下横道・堀内)
- 桜井 和子(下横道・中沢)
- 佐藤 昌江(萩・柳澤)
- 杉村 房枝(萩・落合)
- 関 弘吉(中組)
- 館野 清實(田中・堀内)
- 中沢 欣勇(下横道)
- 中村 恵美(萩)
- 中村 洋子(田中・木下)
- 萩原 清人(萩)
- 橋詰 吉万雄(中組)
- 半田 幸一(田中)
- 半田 喜章(中横道)
- 半田 幸弘(中横道)
- 平田 金子(岡保・橋詰)
- 深町 共栄(田中・山岸)
- 堀内 福下(横道)
- 堀内 寿美(上横道)
- 堀内 勝下(横道)
- 堀内 幸下(横道)
- 堀内 保芳(三島平)
- 武捨 衛人(中組)
- 八木 五郎(中横道)
- 柳澤 實(萩)
- 飯島慶三郎(下原)
- 鈴木 民子(竹室・高寺)



各部の活動報告

☆ 親睦旅行

例年の親睦旅行が、次の通り開催されました。

期日 25年11月10日～11日

参加者 男13女10合計23名

行程 一日目 大宮駅西口パレスホテル前で送迎バスで出発(九時四十分)

～関越道～上田駅前東都庵で昼食

～上田城「櫓祭り」を見学～新築された傍陽小学校・真田町図書館を見学～鹿教湯温泉「鹿鳴荘」(一七時着)

二日目 鹿鳴荘出発(九時)～大松りんご園でりんご狩り～「ゆきむら

夢工房で現地生産の蕎麦粉で蕎麦打ち体験・昼食 真田町出発(十三時)～富岡市の世界遺産候補官営富岡製糸場を見学～大宮駅西口到着(十七時) 詳細は旅行記をお読みください。

担当理事 花岡孝雄

☆ スポーツ

◎ ゴルフ同好会

春の上田会との合同ゴルフコンペは3月13日に、茨城県の名門常陽カントリークラブで行なわれました。出場者一六名、当会からは六名が出場し、春の陽光を浴びて健闘し、スポーツと親睦の一日を楽しみました。



ふるさと訪問旅行2日目の出発！！



春のゴルフ会に出場の皆さん



春のマレットゴルフ会に出場の皆さん

◎ マレットゴルフ

春の大会は4月27日にいつもの新座マレットコースで出場者六名で行われました。優勝は滝沢 けさ子さんでした。

- 優勝 横沢 義雄氏、
- 準優勝 鷹野 芳機氏、
- 佐藤 宏次氏

秋の合同コンペは11月6日に、武蔵野ゴルフクラブで行われました。出場者一九名、当会からは四名が出場しました。

- 優勝 手塚 罔仁氏、
- 準優勝 飯島 慶三郎氏
- 担当理事 荻原啓治
- 堀内 政



リンゴ狩りの後、お屋敷公園前に勢揃い



秋のゴルフ会に出場の皆さん

秋の大会は一〇月二〇日に開催の予定でしたが、雨の為中止となりました。

担当理事 荻原啓治

☆ ふるさと訪問旅行参加者名簿

(敬称略順不同)

- 飯島慶三郎(下原)
- 飯島 啓三(中組)
- 大橋けさ子(菅平・山本)
- 金子 誠(田中)
- 川上 年美(菅平・宮崎)
- 小林 正子(下横道・堀内)
- 坂口 典和(真田)
- 佐藤 昌江(萩・柳沢)
- 柴田小夜子(菅平・市村)
- 鈴木 邦子(横尾)
- 関 弘吉(中組)
- 館野 清實(田中・堀内)
- 中島 正江(戸沢・関谷)
- 中村 洋子(田中・木下)
- 花岡 孝雄(横尾)
- 平田 金子(岡保・橋詰)
- 堀内 寿美(上横道)
- 堀内 勝(下横道)
- 堀内 幸(下横道)
- 堀内 保芳(三島平)
- 武捨 衛人(中組)
- 山口 元彦(横沢)
- 山本 包幸

(二六頁四段目最終行から続く)

宴会が始まっていて湯上り姿でさっぱりした顔見知りの役員の方々に会いました。皆さん元気そう

で楽しく会食をして話が弾んでいました。食後カラオケ室で全員が集まりそれぞれ持前の歌を披露して、会話も弾みました。いまでも一緒に東京にいるような錯覚に陥りました。

朝、目覚め温泉に入り朝食を済ませると、皆さん各自予定があるよう

で一人一人帰えられました。皆元気で忙しそうに楽しく暮らしているよう

ふり返れば

萩 出身 柳澤 實

長寿が世界トップクラスとなったわが国の現状を思うとき、我身にも米寿と云う節目が訪れ、ふり返れば人生とは本当に長く短し、幼くして父を失い我が家、父の代役も幾度か、それが道普請であり、堰(センゲ)あげ…センゲとは上小地方の方

言で「堰(セキ)」と同一語なり、この様な地区の共同作業に駆り出されしこと、これは少年期の記憶だ。

半田入谷川はその名を洗馬川と変え、本流よりセンゲに依り引き込まれし生活用水、農業用水、この自然を共に生活(クラシ)も時代の流れの中で養蚕(成期) 食糧増産の至上命令と、その内容(ナカミ)も大きく変容

戦時下は海軍に、命を懸けた官費旅行はトラック諸島、フィリッピン国ルソン島、マニラ、ミンダナオ島、ダバオ、セブ島セブ、台湾高雄、キールン、未だ記憶の片隅に。



戦後の混乱期は転々に転々を重ね、その数片手に余る。漸く安定した上場企業に就けた時は昭和も四十年を迎えていた。大過なく退職、自由な時間を思う存分獲得、この様な好機

立ち上げた歴史を基本に据えた学習の会で現在も月二回講師を招き学習を楽しんでいる。

退職後もすでに三十年、これ程充実した時を過ごせたのは、これら多くの団体が心優しく、我身に接してくれた以外考えが及ばない。

特に心に残るのは我々の会報「日本ダボス」、そして旧真田町時代に発刊されし「広報真田」この二誌、これ程内容の充実、洗練されし編集、この二誌こそ冊子の双璧をなすものと私は考える。

扱て、残り少なくなりし我が人生、己の意志も手足に届かぬ現在、どの様に生きれば良いのか？良い知恵があれば教を乞う次第…

山菜採り

大庭出身 内海 宏光

私は、貯蔵できる山菜が好きだ。何故かと言え、11月頃から貯蔵した山菜(塩蔵または塩蔵後天日干し)を塩抜きして、「あく」のある山菜は、あく抜きをし、他の具材(竹輪、かまぼこ、こんにやく、高野豆腐等)と美味しく煮ると、ご飯のおかず、お酒のつまみ等また、何かの集まりに料理し、持つて行っても大変美味しいと喜ばれる。だからと言って、一回食べて終わる山菜も、その季節には必ず奥山へ採取に行く。「こごみ、やまうど、たらの芽など、」それぞれ料理方法は、村のお年寄り衆

に聞き、美味しく料理して(もちろん！料理人は、おらのかあやん)頂いている。例えば、こごみなど、ただ茹で鰹節と醤油をかけて食べるが、人によっては味もそつけないという人もいるが、全身ヒスイの様な様、しやしやしきとした歯応え、先の葉部分の舌触り等、新春の珍味と言え。また山うどは少々あくはあるが、茹でる前、酢みずに浸けて軽く茹で適当な長さにカットし、胡麻よごしまたは、単に醤油をつけて頂く。茎の白い部分のコリコリ、葉の部分の



舌触り、適度なあくを感じながら頂く。栽培物と違い正に春の珍味である。たらの芽のテンプラなど、やはり味も素っ気も無いと言う人もいるが、やはり春の香りがし、葉部分の舌触り、天ぷらの衣をとうして山うどと、同様に春の旬芽の味がする。原稿を書きながら春先を思い出すと来年早々に私だけが知っている奥山のあの場所に、山菜採りに行きたくなる。山菜のとれる場所は親にも教えるなと云うが、私も同様、俺らのかあやんにも教えてない。もし教えるとか何か

の事から村のひとにもれるのではないか？と案じられる。きのこ(9月初旬から11月中旬まで何種類かのきのこが採れる。)採りに一回かあやんを連れて行った事がある。その年は8月下旬から9月に掛けて適当に雨が降りキノコが豊作の年であった。むらさきキノコの採れる場所に連れて行ったところ、あまりの数に大声を上げ「わゝこんなにあるのゝ凄、凄、凄い」叫ぶので小さな声で「黙って！静かに黙々と採れ、人に聞かれたらどうする…、ここは秘密の場所」と黙らせた。その時はその場所だけで背負い籠に約一杯となつた。その年は同じ時期に出る「くりたけまたはかぶつとも言う」も多く採れ、径40センチ樽一杯となり、その前の時期に採れた「あかんぼう」とびせんぼんの樽2杯計3樽貯蔵となり、次の年の7月未まで煮物、うどん・味噌汁の具に入れて頂いた。『幸せな一年であった』

野蔭(私の幼少の頃は山の桑畑の土手は野蔭で一杯であり、実家の漬物蔵には醤油樽に塩漬した野蔭が沢山あり、冬時期のご飯のおかずには、野蔭の煮物・佃煮が多く出てきた。)は養蚕が廃れ山畑が無くなり、畑は落葉松・杉等が植林され、樹が大きくなるに連れ野蔭など皆無となつてしまった。私は平成十六年に帰郷し、野蔭のある場所を探したところ、奥山の昔桑畑のあった所に、野蔭の大群が自生している場所を発見した。毎年前年度の日記を

見て、こつそり山の中を遠う回りして採りに行っている。また、ワラビ(菅平のある場所に去年の日記を見て、行く前に菅平のある所にワラビの成長具合を確かめてから行く)は、今年も豊作、家に帰り整理したところ、10センチ径の束15個になつた。大きな樽1個に塩漬し貯えた。キノコについては9月の初めに雨が二回降り今年3年ぶりの豊作と思つたが、雨降り後5日ぐらいは「あかんぼう」「いつぼんしめじ」が多く採れた。お陰様で両キノコだけで径50センチ樽一杯となつた。しかしその後雨無し「むらさき」「くりたけ」の季節にも雨が降らず、特に今年「むらさき」が一本も採れずがっかり、人に聞いたところ「気温が原因で採れずとの事」私だけではなかつた様だ。贅沢は言うまい。今年私には「野蔭」、「ワラビ」各一樽「キノコ」大樽一杯あるので、来年の7月末まで山菜を食いつなぎますわい。山菜を採りたくても、齢で山に行けない人もいるらしい？最近山菜の時期、山に行っても人に合わない事が多い。贅沢な話ではありませんが、今年「キノコ」が貯蔵樽一個とは私にしては

「残念・無念の年であった。」



「77歳の足跡」

理事 武捨 衛人
(中組出身)



長野県小県郡傍陽村中組区堤、ここを生まれ在所に私は昭和10年11月23日に誕生し、皆様のお仲間にして頂きました。国民学校入学までは、7人の家族と周辺500メートルあまりが私の世界で、思い出に残る幼なじみは前の家の「尚江ちゃん」でした。

昭和17年4月、戦時下の傍陽国民学校初等科に入学しました。クラスは忠組で小林照子先生、同級生に坊ちゃん育ちに見えた三井重人君が居ました。三年生からクラスが男子組、女子組になり、男子組の先生は若さ溢れる唐沢 功先生でした。四年生の時は芸術家に見えた荻原宗治先生で、この年に戦争が終わりました。先生の呼び方が「衛人！」から優しい「衛人君」に急変し、違和感を覚えたものです。

この頃学力も行動力もすぐれた

都会からの疎開の仲間が急増して
二学級が三学級に、同期生が八十
人から百二十人になり、学校の
レベルが上がったように思う一方
で、負けちゃいけない気持ちに
駆られたものでした。

私は幼時から本が好きで、小学校
の頃はいつも図書室や友達から
借りた本を読みながら登・下校する
ことが多く、通学路の村人から
は「二宮尊徳さん」のニック・
ネームを頂いていたようです。

衣食共に粗末で、今からは考えら
れない状態でしたが、小五、小六と
学年が上がるにつれて、少しづつ豊か
になった様な気がします。小六から
男女共学で一組が丸山先生、二組が
山浦先生、三組は鈴木先生でした。
若さに溢れ、野球の上手な鈴木先生の
三組を羨ましく思いました。

中学はA・B・Cの3クラスでした
がA組の男子とB組の女子が勉強も
行動力も抜きん出て見え、B組だった
私は女生徒との口喧嘩にいつも負け、
またA組の男子にはB組は太刀打ち
できないという劣等感をずっと
持っていました。野球部の選手・
生徒会役員・部落の自治会活動等
に打ち込んだ3年間は楽しく、あっと
いう間でした。

担任の先生は一、二年が関 義一
先生で三年が上原不器先生でしたが、
若さの魅力と、円熟した人格の素晴
らしさを実感させて頂きました。

エピソードを二つばかり……2年生
の正月頃、巷に流れていた『流行歌』

に大人の世界を覗き見る気分で、何時
も休み時間に口ずさみ、席が近か
った某女生徒に「音痴、音痴」
と尊敬？されたり、別の女生徒には

「先生なえ、クラス委員の衛人は何時
も流行歌を歌っているよ」と告げ
口されたりしていました。昼休みに
教室の窓辺で、男涙を笑顔で隠しや
タバコが苦い……♪と流行っていた
竹山逸郎の『別れの夜汽車』の一節
を口ずさんだところ、めっきり
女らしさを増していたある同級生
が近づき、耳元で「衛人さん、タバコ
って苦いの」とささやくように云い
ました。異性を意識し始めた時期の
私は狼狽し、耳朶まで真っ赤になっ
て返事も出来なかったことが昨日
の事のように思い出されます。

又その頃、好きな女の子が出来て、
寝ても覚めてもその子のことばか
り考えていて、気がつくといつもそ
の子の近くに居たものでした。今
ならさしずめストーカーでしょう
か……その子はそれ以来、チャッカリ
と私の思い出の小部屋に住みついて、
六十年以上経った今も、老けること
もなく部屋代も払わずに、未だに
出て行く気配がありません……

武捨一族の自家の跡取りなので
養蚕教師になって家を継ぐつもりで
小県蚕業高校に進学しました。高校
では合宿して蚕を飼い、夏休みに登校
して農場で収穫した農産物を上田
の街頭で売り、また夏はバレーボール、
冬はソロパンのクラブ活動や、

生徒会長(2年)、学園祭の演劇出演
(3年)、真似事ながら初心で真剣な
男女交際など、充実した高校生活を
楽しんでいましたが、高三の夏休み
前に、担任の有川先生が親ばか
チャンリンに筋金が入っていた父を
説得してくれて、急遽進学に進路変更、
この時、父は担任の先生が大丈夫だ
とおっしゃっているから、東大に行く
ようにと簡単に云いました。

高校の三年間で六回も蚕を飼った
り、バレーボール・生徒会長・文化祭
の演劇出演などにエネルギーを
費やした私には全く無理な話なので、
それなりの大学に進学し将来我が子
の出来がよかつたら、東大に進学させ
るので楽しみに長生きして欲しい
とかわしました。

そして、半年間の寝食を忘れての
猛勉強も間に合わず、見事に桜散る
……。一年間の浪人生活(日本レイヨン
岡崎工場勤務との二足草鞋を履き
ました)を経て東京教育大学(現
つくば大学)に進学しました。同じ
学部の一年先輩に現役合格の石谷
彰治君が居て、田舎者の私には何と
心強かったことか……

入学当初はやはり高校の教師
になって跡取りの義務を果たさな
ければと考えていたのですが、大学
三年の春休みに就職依頼に訪れた
母校の中村校長先生に大学院進学
と活動分野の広い一般企業への就職
を強く勧められて夢を膨らませ、父
のOKを得て憧れの大学院の中西研
究室で学んだ後、当時花形であった

合成繊維会社の三菱レイヨンに入社
して異郷の地、九百キロ西の広島県
大竹市へ……父や家族には迷惑を
かけっぱなしの武捨家18代目の不肖
の長男でした。

大学生活の側面では、大学一年
の夏休みに前年から一年続いた
ふるさとの女高生との男女交際に
人並みに失恋して「十代の恋よ、さよ
うなら」の辛酸を体験しました。そ
して俺は「凛とした男」だと潔く選択
したはずの失恋の傷跡を大学院
一年の夏休みまで四年間も未練が
ましく引きずり、山中湖や赤城山の
湖畔の大学寮に癒しの旅に出かけ、
泣くだけ泣いて失恋の悲哀を味わ
い尽くした青春でもありました。

晴耕雨読の日々に親しみ、病氣知
らずで健康そのものだった父が
多発性骨髄がん入院し、二ヶ月
足らずで急逝したのは昭和45年
6月(六四歳)で、父が東大進学を
楽しみにしていた孫(私の子供)は
五歳と二歳に過ぎませんでした。
見舞いに訪れた病床の父の頬には、
死期を悟った無念と惜別の涙が
流れ続けていました……

まだ二十一年位は家の事は父に
任せられると信じていた私は退職
して帰郷するか、郷里で就職について
いた弟に頼むかと大変悩みましたが、
弟が快く家を継いで呉れることに
なり、ホッとするとともに、弟に
頭が上がらなくなったものでした。
その弟は不摂生な私と全く逆の
自然児で、田舎の生活と教職をこよな

く愛し、百歳ぐらい生きそうな健康体に見えたのですが、肺癌のため六年余りの闘病の末、五八歳の働き盛りで逝去しました。墓前に大学を出たばかりの跡取りの甥が無事に上田市役所に入ったことを報告し、二つ違いでずつと仲の良かった弟の冥福と安らかな休息を心から祈りました。

後日談ですが、亡くなった父が成長を楽しみにしていた私の子供たちは、タフで私の度々の転任に伴う転校にもすぐに馴染んでいくと成長していましたが、特に長男の敏彦は理系で成績もよく小学校五年で優良児童の県知事賞を受賞、中学二年で愛知学芸大付属名古屋中学から転校した東京学芸大附属竹早中学の卒業式で『総代で答辞』の快挙を演じてくれ、学芸大付属高々東大工学部で東芝のコースを辿り、見事に亡き父の夢を叶えて呉れました。早速、信州の実家の墓前に報告し、気がつくくと「父に長生きして欲しかった」とつぶやいていました。

次男の紀彦は文系・スポーツ系で、高校・大学受験に苦戦しましたが結局、小手指中より所沢高々早大NECと辿ることが出来て一安心しました。

サラリーマンのスタートは昭和36年4月で、三菱レイヨン(株)の中央研究所に入り、故郷を遠く離れた広島県大竹市に7年半勤務しました。ここで結婚・子作りと生命体の義務を果たし、昭和43年(三二歳)秋から東京の本社に戻り、

研究部・技術開発部を経て昭和49年(三八歳)正月から名古屋の商品開発研究所へ、昭和53年(四二歳)に入って折からの不況の影響で、ぬくぬくとした研究所から本社に呼び戻され、ソ連貿易開発を命じられ、モスクワ詣での一年半を過ごしました。

羽田や成田の空港から「エイロフロート」の夜行便で不自由な英語の資料を携え、言葉も殆んど分からないモスクワへ飛び立つのは心もとなく、単身赴任のわびしさも加わって、学生時代に流行ったフランク・永井の「羽田発七時五十分」が身に沁みたまものです。

その後、ペットボトル開発に転じ十三年あまりの営業担当兼セールスエンジニアを経験、趣味のカラオケもこの時期に我が物に。今日、巷に溢れているペットボトルも当時は食品衛生法が障壁になって日本では使えず、合成繊維業界の各社の代表、6〜7人と厚生省令の改訂に取り組んで5年間に亘る悪戦苦闘の末、やっと昭和58年に日の目を見る事が出来たのでした。

十三年余りの営業担当兼セールスエンジニアの仕事は主に小林コーサー・ノエビア・ナリス化粧品等の訪問販売用化粧品ガラス容器に変わるプラスチック容器の製造技術指導と材料のポリエステル樹脂の販売でしたが、ガラスしか知らないユーザーに、先ず材料のポリエステル樹脂やそのボトル製造技術・製造装置などの講演をす

ることから仕事が始まったので、本来お客様のユーザーから、「大先生」の称号を頂戴し、充実した営業活動を続けることが出来ました。

現地指導が必要なため十三年間に訪れた出張先は本州はもちろん北海道から九州の日本全域に及んでおり、特に北や西の最果ての宴席では『東京の人』と呼ばれ、なじんだ女性もちらほら…、ヒット曲のタイトルではありませんが『小樽の人よ』や『長崎の女』がびつたり当時の彼女達の佛が浮かぶこの頃です。

平成4年(五六歳)に第一線での仕事を続けたくて中小企業に転じましたが、環境の急変で体調を崩し結局、三年目に胃と胆嚢を失う羽目に…以後大好きだったてんぷら、肉類、ウナギ、ビール、たばこと決別し、仙人のような精進料理から玄米雑穀食に転進、幸いがんの再発もなく、二〇年の歳月が経ちます。

入院三か月で職場復帰を果たし、商品開発部長としてシフトレバーハウジング、スピードメーター等、車の運転席まわりの部品開発を手がけ、ベンツ、GM、トヨタ、ニッサン、ホンダ、いすゞなどに採用され、退職までの8年間にパソコンで自ら設計し、協力工場の尻をたたいて回って量産にこぎつけた部品を搭載した車が、後継部長の推定によると今でも一千万台位走っている由で、ささやかな自己満足を感じています。

現在、暇を持て余さずに居られる趣味のパソコンはこの時期の遺物

で、最大の財産になっています。

平成12年、ミレニアムの年の西暦二千年に64歳で退職し、寝に帰って居ただけの地元に戻すべく、長寿会を作ったり、パソコンクラブを作ったり、ストロクターを勤めたり、又、同郷の皆さんの集まりである東京真田町の会で広報担当の理事を務め、会報誌「日本タボス」の編集長を十三年間に亘って担当させて頂いています。

現在の我が家は妻と二人だけで、たまに長男(東芝府中事業所勤務、川崎在住)、次男(NEC本社勤務、松戸在住)が顔を見せるだけの静かな家庭です。

現在の私に豊富にあるものは病氣・貧乏性・元氣・趣味・どうでもいい仕事などで、殆んど無いものはお金・仕事らしい仕事・髪の毛・胃・歯・甲斐性・根性などでしょうか。誕生して七十七年の喜寿を無事に迎えた現在、改めて生涯を振り返ってみると、信州の片田舎に住み着いて四百年あまりの武捨一族(言い伝えでは武田信玄の血を引き、武田家滅亡の時に武田一族への追及も厳しく又眼疾で視力を失っていたので「武田と武士」の双方を捨てて武捨を名乗り、武田二十四将の一人であった真田昌幸を頼って真田領の一角だった現在の上田市真田町傍陽の堤地区に隠棲したとか…)の総本家の跡取りの身の上をいつも意識して、身の丈にあった

生活と所属集団のリーダーたるべく常に努力すること、地道に生きることを信条にした長い道のりが走馬灯のように思い浮かべられます。

そして、良き師・上司・同僚・部下、よき友達、自由にさせてくれた両親、健康でタフなわが家族に恵まれ、所属する組織においていつも存在感を発揮して過ごせた事に深い感銘を覚えるこの頃です。

身の丈に合うように控えめにと意識しながら結果的には、望外の大学院に学び、最先端のプラスチックのセールスエンジニアとして北は小樽から西は長崎と日本中を駆け巡ったことなどが生き生きと蘇ってきます。

テレビ番組で紹介された方法で計算した私の寿命はなんと九十五歳！でした。これではボケては大変と、学習塾の講師、地元小学校の学校評議員、パソコンのインストラクター、小学生の帰宅見守り隊、同郷会誌の編集長等、脳漿に負荷のかかる日々の仕事に精出して少しでも若さを保とうと努力している次第です。七七歳までの人生で見送った家族は、祖母『りゅう・八四歳』、父『庫之・六四歳』、妹『生代・三八歳』、母『けさます・八二歳』、弟『征夫・五八歳』の五人を数え、生存者は三歳上の姉『栄江・八十歳』と私の二人きりになってしまいました。

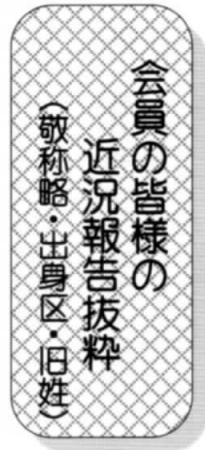
病気知らずの頑健な身体に恵まれていながら、一ヶ月足らずの入院で亡くなった父、六年余りの闘病の

末に逝った弟、二〇代半ばで不治の膠原病に罹り一四年間に及ぶ悲嘆な闘病生活の末に亡くなった妹：ほぼ天寿を全う出来た祖母・母よりはるかに強い想い出を残しています。私は彼らの分も生きて、ずっと冥福を祈り続けたいと思います。

生涯の伴侶の妻とは昭和三四年の八月に、大学院一年の夏休みを終えて帰京する信越線の上田駅で列車に乗り合わせて知り合い、四年余りの遠距離交際を経て昭和三九年四月に結婚したので間もなく金婚式です。

金婚式を控えて妻に贈る
「五つの勲章」

- 一 健康体で病気らしい病気をしたことがない
- 二 家事好き、清潔好きで家のなかはいつもすっきり
- 三 明るい性格で我が家は何時も安らぎいっぱい
- 四 五体満足で勉強好きでタフな子供を産み、育ててくれた
「長男・東京学芸大附属竹早中
—同付属高—東大(工)—東大(株)—
「次男・所沢高—早大—NEC(株)」
- 五 ものが忘れがひどくなった私の忘れ物を良く発見してくれる探し物の名人
以上



1 青木 進(横尾)

病気の為リハビリ中です。皆様方のご活躍を祈念しております。

2 荒木廣之(下原)

真田町の会：いつも心の故里としてなつかしく思います。懇親会を5月に開催との事、体調少々気になり思考中です。役員はじめ会員「ご同様の益々のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。」

3 飯島啓三(中組)

皆様とあえるのを楽しみにしております。

4 石谷彰治(横道)

東京で定年退職後、郷里上田へ戻り13年になります。皆様によろしく

5 石巻哲夫(曲尾)

現役で仕事しております、まだ日曜日に休むことが出来ません。よろしくお願致します。

6 石巻伸夫(曲尾)

妻 千恵子(菅平)も欠席します。盛会を祈念します。

7 井上かつよ(田中・堀内)

葉桜となり、すっかり新緑の季節になりました。役員の皆様方、御苦労様です。今回も皆様にご会えることを楽しみに出席させて頂きますので宜しくお願い致します。

8 岩井泰子(本原・荻原)

暖かかったり寒かったりの不順な天候も落ち着き、新緑の美しい季節となりました。役員の皆様様には大変お世話になりました。去年はありがとうございました。去年は本原小学校卒業以来初めての同窓会が別所温泉であり、参加しました。古希を記念して催され、本日に50何年振りの再会でしたが皆昔の童心に戻り、本当に楽しいひとときを過ごしました。卒寿を迎えられた恩師のお元気な様子に本当に嬉しく元気をいただきました。

9 岩崎みち子(長・正木)

いつも大変ありがとうございました。もしかしたら孫の出産日が6月3日なので、早く生まれたらとちよつと心配しています。三人目です。その時は連絡いたします。

10 上ノ山勝信(三島平・堀内)

都合悪く申し訳ありません。

11 内海辰三(大庭)

本年85歳の高齢で体調がよくありませんので出席できません。

せん。出席者皆様の元気で御健勝の程をお祈り申し上げます。

12 内海宏光(大庭)

私の住んでいる所は、傍陽地区の県道35号線(地元では松代街道とも言います。)の菅田足玉神社の近くです。今年の冬は特に寒さが厳しく、入軽井沢の方から吹いてくる「地蔵峠下ろし」で毎日零下10℃以下でした。例年ですとねぎを秋にたつぶり収穫し、春までそれを味噌汁等の具として頂いておりますが、昨年は収穫量を減らし、足りなかつたら畑から掘り起こしてくれば良いとしていたところ、一月末になり貯蔵ねぎゼロとなつてしまいました。直ぐに畑に行き掘り起こそうとしましたが、凍土でツルハシを使用しても収穫出来ず、結局スノーパーで買うことになりました。

13 大橋けさ子(菅平・山本)

お世話になります。今年もアトラクションを楽しみにしております。いつもありがとうございます。

14 荻原椒子(六沢)

昨秋ついでがあつて、らいてうの家を訪問しました。傍陽の方が提供されたという杉丸太の柱も見てきました。偶然でしたが館長の米田先生にもお会い出来て、色々説明していただきました。

15 荻原 學(真田)

欠席しており恐縮いたしております。

16 北澤りん(上横道・柳沢)

役員の皆様いろいろ様です。故郷をいつかのまた「日本タボス」の来る日を楽しみに待っています。

17 久保新一(角間)

会の運営ご苦労様です。今の若い人達には期待できませんので、どこかで幕引きを考えた方が良くと思います。上田の会に合流し、その「部会」とするのでも一案です。

18 倉島義明(横沢)

他の予定とバッティングしてしまい、今年は失礼します。ご盛会をお祈り致します。

19 倉持信郎(入軽井沢・小林)

近年私は泌尿器系統に大きなリスクがあり体調もあまり良くありません。来月からは抗がん剤の注射治療に入ると思いますが、嫁いだ二人の娘と一緒に参加したいと思えます。因みにお聞きしますが、若し娘一人が参加した時も同額でしょうか。

20 小林勝美(入軽井沢)

妻が病気療養中に付、申し訳ありませんが欠席させて頂きます。ご出席の皆様方によりしくお伝えください。係の方に感謝しております。

21 小林公江(大日向・塩沢)

役員の皆様いつもお世話下さりありがとうございます。他の行事と重なり残念ですが欠席します。会の盛会をお祈りします。

22 小林重利(入軽井沢)

「いじや」案内ありがとうございました。昨年十月に十二指腸の手術をいたしました。徐々に快方に向かつておりますが、もう暫く静養いたしますので、残念ながら欠席させて頂きます。ご盛会をお祈りいたします。

23 小林孝雄(曲尾)

幸い元気です。去年米寿を迎えました。返事が遅れてすみません。

24 小林正子(下横道・堀内)

いつもお世話になっております。元気で出席できることに感謝し、皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。

25 斎藤美枝子(菅平・今井)

平成24年、25年の2回分の会費を払い込みます。5月の終り頃から6月の初め頃に菅平に行く用事がありますので出席できず残念です。よろしくお願ひします。

26 桜井和子(下横道・中沢)

元気で充実した何かと忙しい

日々を過してあります。

27 笹沢けさむ(横沢・久保)

私共の住んでいる八千代市は、印旛沼に連なる新川沿いが満開の桜 開花です。3/22。役員の皆様には何かご苦労様です。用事が入って居り総会には行かれませんがふる里との交流がいつも拝見出来るのも皆さまのお陰と楽しみにしています。いつもありがとうございます。末永く続きます様に。

28 佐藤宏次(田中)

期限切れの連絡となり申し訳ありません。当日は市の行事と重なるため欠席させて頂いてもういいます。皆様によりしくお伝え下さい。

29 佐藤昌江(萩・柳沢)

大変遅くなりまして申し訳ございません。どうぞよろしくお願ひ致します。

30 椎名己津男(横沢・山口)

御案内状ありがとうございました。役員の皆様のご苦労に対し心より感謝申し上げます。今回は参加させていただき、楽しいひとときをよろしくお願ひします。 みつお

31 塩沢和政・春江

大変お世話様でございます。

私(妻)も出席の程、宜しくお願い致します。

32 柴田小夜子(菅平・市村)
今年もまた皆様にお会い出来る事がとても楽しみです。楽しい時間が過ごせますように、宜しくお願いいたします。

33 清水清晴(中横道)
役員の皆様「ご苦勞様です。ズクを出して出席したいのですが年齢が歳ですから遠出は出来ません。皆様によるしく。会の発展をお祈りします。
(広報うえだの私への配布中止を願っていたのですが…)

34 清水民子(曲尾・上原)
幹事様、「一案内ありがとうございませぬ。返信が遅くなり申し訳ありませんでした。5/20・21は傍陽中学の同期会となり、そのあととも友人と出掛けることとなり、5/26は出席する事が出来ませぬ。次回はぜひ、参加させていただきます」と思っています。また、お誘いください。よろしく願っています。

35 清水征夫(中原)
役員の皆様「ご苦勞様です。四国八十八歩き遍路と重なりまして、欠席させて頂きます。皆様による

しくお伝え下さい。

36 杉崎壽三男(菅平)
元気に暮らしております。当口は所用により欠席となりますが、本会の益々の「発展をお祈り申し上げます。

37 鈴木郁夫(横尾)
元気でやっております。残念ながら26日は他の行事(幹事)と重なり出席出来ません。

38 鈴木邦子(横尾)
寄る年波に勝つことは出来ませんが体力と能力に相談しながら、日々楽しく過ごしております。

39 鈴木民子(竹室・高寺)
いつもお世話様でございます。他の用事と重なるうかと思いましたが、都合がつかしましたので出席させていただきます。よろしくお願い致します。

40 滝沢あい(代理・真田)
只今特養入所中。「盛会を祈念します。

41 滝沢けさ子(赤井・若林)
いつもお世話になります。マシットで参加させてもらっています。有難うございます。

42 武田守央(真田)

若い時のつもりで体を動かそうとしますが、若い時のように体は動きません。これも年齢のせいでしょうか、でも元気で過ごしております。今回の総会は用事が入ってしまい参加できません。総会の盛会を願っております。

43 館野清實(田中・堀内)
80歳すぎますと今年が最後かな。なんて思いながら、今回も皆様とお会い出来ますことを楽しみにしております。

44 田中恒夫(横尾)
いつも「ご苦勞様です。「ご発展をお祈り申し上げます。お陰様で元気にしています。

45 中沢欣勇(下横道)
役員の皆様方にはお世話様になり誠にありがとうございます。一年が早くも過ぎて又、総会となりました。懐かしき真田町の人達との会合で元気を頂き、又一年間頑張ります。

46 中村恵美(萩)
返信遅くなり申し訳ありません。80歳も過ぎて行動もとても難儀になりました。出席させて頂きます。

47 中村洋子(田中・木下)

今年も東京真田町の会、いかれる事をうれしく思います。(出掛けることが好きなのでこれも役員様のおかげですね。ありがとうございます。「すーっ」続きますように…。

48 成澤今朝信(萩)
5月6日〜23日の間右手の手術で入院するため欠席とします。

49 野村勝太郎(萩)
毎々申し訳ありません。今年も残念ながら先約があり出席できません。皆様に宜しくお伝え下さい。妻富子(萩・橋詰)共々元気で居ります。

50 橋詰吉万雄(中組)
去る4月15日、八十路坂に登り詰めた81歳と82歳、昭和19年に傍陽小学校を卒業して現在まで毎年4月に同級会(上山道温会)を開催しております。卒業当時100人だったのが、物故者、不明者を除いて53名となった現在、出席者は僅か19名となりました。宴会前や食後には飲み薬の品評会のよつな風景が見られました。

51 花岡孝雄(横尾)
3月で44年間勤め、無事卒業出来ました。

これからは、第二の人生を有意義に過ごしたいと思っています。

52 半田武男(三島平)
体調若干不良につき欠席します。
「盛会をお祈りします。」

53 久野けさ志(中横道・堀内)
何時も係の方にはお世話に成
り有難うございます。当日は法事
と重なり欠席します。皆様によろ
しくお願い致します。

54 平田金子(岡保・橋詰)
いつもお世話様になつておりま
す。よろしくお願い致します。

55 堀内耕吾(下横道)
本年も所用と重なり出席でき
ません。

56 堀内 政
御盛況を「祈念いたします。」

57 堀内敏文(下横道)
連絡ありがと「いけません」
当日他の行事と重複してしまいました
ので「今回は残念ですが欠席します。」

58 堀内寅次(横道)
元気で過ごしております。間も
なく82歳を迎えようとして居り
ます。会を楽しみにしております。

59 堀内秀夫(下横道)
大変遅くなり申し訳ございません。
毎日明るく楽しく生きる様に

と努力してますが：一人で電車
に乗ることが出来ず参加できま
せん。努力と少しの◎◎があれば
と思つてます。

60 堀内 幸(下横道)
秋の一泊親睦旅行には多数の
皆様のご参加をお願いします。

61 松井志づ江(萩・柳沢)
お陰様で元気で過ごしております。
今回は欠席とさせていただきます。
皆様によろしくお伝え下さいませ。

62 松沢 信(大日向)
いつもお世話になつております。
今後ともよろしくお願い致します。

63 丸山広義(曲尾)
本年もほかの会合と重なつて皆様
にお会いすることが出来ず残念に思
います。「盛会をお祈り致します。」

64 三井芳郎(大庭在住)
腰痛で苦しみました。26日はす
みませんが欠席とさせていただきます。
よろしくお願い申し上げます。
返事が遅くなつてすみません……

65 宮下毅士(真田)
畑仕事や庭の草引きなど日課
に毎日楽しく生活しております。
孫達と同居しています。地域の

方々と防犯パトロール活動など
で交流を深めています。

66 宮島光男(横尾)
真田町の会・東京上田会の合同
コンパを楽しみにしています。

“光輝”高齢者になつても歩く
のが楽しみ。ふるさと真田の発展
を願っています。

67 武捨幹男(中組)
配偶者の介護で出かけられない
ので欠席いたします。

68 武捨衛人(中組)
大勢の会員が出席され、盛大な
第26回総会になる事を祈念し
ています。役員諸兄姉の皆さん、
いつも本当にご苦労様です。

69 森本幹生(入軽井沢)
皆様の健康と盛会を心より願つ
ています。

70 八木五郎(中横道)
寒い一月の末頃、七十肩位に思
つて痛い事に慣れつこに成つて
勤めていたら、夜中に激痛、ズキ
ン・ズキン脈打つ痛みで眠りから
覚めます。整形外科でMRI撮つ
たら：両肩腱板断裂の診断。生ま
れてこの我一ヶ月半余休養も切
れた筋は戻らぬも、痛みは大分リ
ハビリにて緩和。三月中旬より現
役復帰、無理せず現在に至ります。

病院通いでガタガタ、封書、古紙
にまぎつていすこへ？こんな返
信にお許しを「ゴロゴロにゃんよ
り…カラオケ夕焼雲(平) 昌夫」
又皆さんに逢える事楽しみで

71 柳沢郵政(戸沢)
戸沢魅力アップ事業発行の
「戸沢」を兄から送ってもらいま
した。なつかしい行事などが記録
されていて、繰り返し読んで楽し
んでいます。ありがとうございます。

72 柳沢 實(萩)
冬「もりも漸く終わり、春の訪
れは老体にもやさしく心弾む温
かさを与えてくれます。それより
何より26日には皆様方にお逢
いできる 今から心が騒ぎます。
ひたすらそれを楽しみに…

73 柳橋米子(下横道・内川)
いつもお世話になつておりま
す。体調も悪く杖を頼りに歩いて
います。いつも送って頂くタボス
は楽しみに読ませて頂いています。
皆さんにお逢いしたいですが残念で
す。楽しい会になりますように…

74 山宮敏男(入軽井沢)
会長様拜め役員の皆様いつも
ありがとうございます。町の行事
があり参加できません。元気です。

75 横沢義雄(本原)
 グランド・ゴルフやゴルフをたのしんでいます。

76 荒木好水(曲尾・清水)
 主人が亡くなり、私も大腿骨骨折で手術をし、歩くのが不自由になり出席出来なくなりました。この会をやめたいと思っております。ごめんがうておりました。

77 鎌田ちえ子(三島平・坂口)
 今回をもって退会をいたします。いろいろ連絡下さってありがとうございます。年会費は別送にて送金いたします。

78 川上隆康(菅平)
 会費延納、大変申し訳ありませんでした。今後は脱会させて頂きます。よろしく手配をお願い致します。25年度分は4月26日に払い込みました。

79 岸 俊子(大日向・一ノ瀬)
 お世話になりましたが脱会させて頂きます。有難うございました。

80 小林洋二(横尾)
 いつも御案内等ありがたう御座居ます。さて、3月以来家内の体調がすべし外出を控える状況となりましたので町の会より退会させて頂きたいと思いま

す。
 真田の会及び山口を最後に、ご同様の今後の御隆盛をお祈りいたします。

81 小林嘉彦(赤井)
 夫・小林嘉彦は平成24年12月16日、病気のため永眠いたしましたので、ご報告させていただきます。妻・小林千恵

82 斎藤かね子(上横道)
 介護手伝いの者ですが斎藤さんは一人住まいでして、本人の体調が悪く、読み書きも出来ないのので、退会をお願いして呉れこの事ですので、宜しくお願い致します。

83 斎藤喜佐子(戸沢・柳沢)
 今回で退会させて頂きたいと思えます。長い間有難うございました。

84 波井雄子(中組・武捨)
 御苦労様です。数年前に脱退届けを出して有りますので処理して下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

85 波沢芳三(横尾)
 夫、芳三、3月15日に90歳で永眠いたしました。年に一度は横尾の墓参に行き、故郷を楽しんでおりました。真田町の会の今後の御発展を祈っております。長い間本当にありがたうございました。(奥様のお便り)

86 関 義一(入軽井沢)
 父義一は平成20年9月に永眠いたしました。

87 関谷トヨ子(?)
 昨年おば関谷トヨ子は他界致しました。生前は大変お世話になりました。ありがたうございました。益々の活躍をお祈り申し上げます。(めいじさんのお便り)

88 高梨ムツバ(角間・倉島)
 長い間お世話になりました。私この度退会させて頂きたく思います。有難うございました。

89 滝沢富志子(下横道・半田)
 昭和初期も遠くなりましたので、今回をもちまして退会させて頂きます。長い間ありがたうございました。今後の皆様の御活躍をお祈り致します。

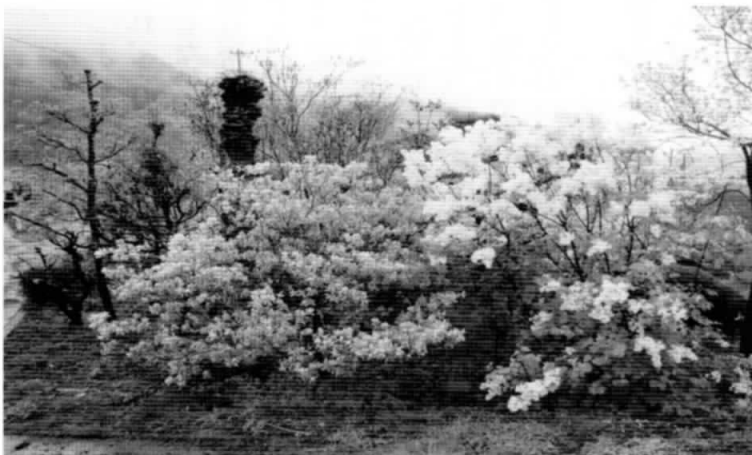
90 鳴澤美喜雄(中組)
 連絡不要にお願いします

91 萩原節子(大庭・花岡)
 長いことお世話になりましたが退会させて頂きます。

92 柳沢宣昭(戸沢)
 退会しますのでよろしく。

93 山口末子(穴沢・西牧)
 今回がきりて休みさせて頂きます。

94 山口義弘(真田)
 脱会
 会の第一回からお世話になりました。ましてありがたうございました。高齢にもなり体調不良にもなり出席できなくなりました。会の益々の発展をおいのり申しあげます。



《ふるさと横道の路傍に寄り添って咲く紅白のめおとつつじ》

ふるさとのコーナー“生のふるさと便り”をお楽しみください

インターネットの検索窓に「上田市役所 ホーム」と入力して検索ボタンをクリックし、検索結果の「上田市役所-ホーム」の項をクリックして上田市役所のホームページを開き、トップページ左側中段の総合案内項で「広報」をクリック、開いた画面で地域自治センターだより「さなだ」の項をクリックで開き、最新号の項にある N035 平成 25 年 11 月 15 日号 をクリックすると、最新号をフルページの拡大画面で見ることが出来ます。お暇な折に訪れてみてください。ここでは《トップページ》のほか、2～8頁にわたって盛り沢山なふるさとのホットニュースにリアルタイムで接することが出来ます。(写真→38頁)

編集 後記

『日本ダボス第二六号』を本日お届け致します。最初に貴重な原稿をお寄せ頂いた皆様にご心から御礼を申し上げます。お陰様で第二六号を充実した内容で発行することが出来ました。

今年の夏は観測史上初めての高温や真夏日の連続記録が多く見られ、また竜巻の多発、豪雨の新記録、さらにはフィリッピンを直撃した史上最強・最大の台風など、枚挙の暇もない天候不順の年となりました。地上で唯一の知的生命体である私たち人類の力も、原子力エネルギーの利用技術や自然現象に対応する能力については、まだまだ脆弱でほとんど無力である事実を謙虚に受け止めなければならぬと思います。私も「喜寿」を無事に通過し傘寿に向かって歩を進める事になりました。先日テレビで紹介された寿命計算法によると、私の寿命はなんと九十五歳!!! ポケテ周りに迷惑を掛けてはいけないので、どの様にして脳漿を若く保つかとインターネットや本屋さんの立ち読みで探しているところです。良い知恵がありましたら御教示頂きたく宜しくお願い致します。

最近、半世紀以上も親しかった友人の訃報に接することが多く寂しい限りですが、冥福を祈りながら、そちらでお酒がうまく料理が美味しい、美しい女将のいる居酒屋を探しておいて欲しい等と不埒な考えが頭をかすめる齢になってしまいました。

本号の編集では新しい試みとして行替え時に、漢字のひとつづきの言葉(単語・熟語)を切らない努力をしてみました。具体的には四〇頁の全ての文章を見直し、行替えでひとつづきの言葉が切れている場所について、文字間隔の調整を〇・一ポイント単位で行う事が必要で、大変な作業になりましたが、少しは読みやすくなりましたでしょうか? ご意見をお寄せください。

第二六号のふるさと風景には、私たちの若き日の想い出も豊かな上田城跡公園の晩秋風景と、六億五千万円の巨費を投じて改築された傍陽小学校の木の香豊かで、素晴らしい施設の紹介写真を集めて見ました。きめ細かく配慮された美しい教室やいろいろな施設: 出来る事ならもう一度入学したいと思いました。児玉校長先生のお話によると全校の児童数がわずかに百七人(私の頃は小・中で千人超)、この恵まれた環境でふるさとの子供たちが伸び伸びと育てて欲しいと願いました。

末筆で恐縮致しますが、上田市議会事務局長の小山様並びに真田地域自治センター、地域振興課の林様、上田市教育委員会の児玉様、お忙しい時期に格別なご協力を頂き大変有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

原稿集めに協力頂いた理事の皆さん、編集スタッフの皆さん大変お世話になりました。(武捨記)

～会員消息～ (敬称略)

- <入会>
- <住所変更>
- <退会>

長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

荒木好水	鎌田ちえ子	川上隆康	岸 俊子	小林洋二
斎藤かね子	斎藤喜佐子	渋井雄子	高梨ムツ巳	滝沢富志子
鳴澤美喜雄	萩原節子	柳沢宣昭	山口末子	山口義弘

- <逝去>

会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

小林 嘉彦 渋沢 芳三 関 義一(H20 逝去) 関谷トヨ子

次回総会の予告

平成26年の総会、懇親会は5月25日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお願い申し上げます。詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第18号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成25年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。会員の自然減で会の資金繰りも苦しくなっております。宜しくご協力をお願い致します。

広告御礼

日本ダボス第26号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさととの交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も二六年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、皆様のご協力、そして旧真田町並びに新生上田市当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われまます。

皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願ひ申し上げます。

連絡先 山口 元彦

〒184-0012 東京都小金井市中町二一九一六

☎ 03-5215-1511 FAX 番号 03-5215-1512
☎ 042-383-6555

..... 投稿・寄稿のお願い

日本ダボス27号・しらかば通信18号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは2,400字以内、しらかば通信は800字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いいたします。

広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

平成24年度 決算報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費収入	320,000	195,480	総会懇親会費	600,000	388,505
総会懇親会費収入	500,000	413,000	会報発行費	550,000	496,256
上田市補助金	300,000	300,000	事業費	100,000	76,500
広告収入	300,000	208,450	事務通信費	100,000	51,210
寄付金等収入	65,000	81,000	印刷費	20,000	14,404
利息等雑収入	50	44	会議費	90,000	85,419
			渉外費	100,000	35,000
			交通費	50,000	25,000
			雑費・手数料	80,000	22,013
			予備	51,701	0
当期収入合計	1,485,050	1,197,974	当期支出合計	1,741,701	1,194,307
前年繰越額	256,651	256,651	次期繰越額		260,318
合計	1,741,701	1,454,625	合計	1,741,701	1,454,625

上記の通り収支決算報告いたします。平成25年3月31日 会計 金子 誠 ㊟
 上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監事 深町 共栄 ㊟
 監事 堀内 幸 ㊟

平成25年度 事業計画

- ① 第26回総会及び懇親会の開催（平成25年5月26日）
- ② 会報「日本ダボス」第26号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ 上田市との交流促進のため、ふるさと訪問、ふるさと特産品の宅配協力、各種文化・スポーツ行事の実施と参加
- ⑦ その他

平成25年度 収支予算

平成25年4月1日～平成26年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費収入	285,000	総会懇親会費	500,000
総会懇親会費収入	450,000	会報発行費	550,000
上田市補助金	300,000	事業費	90,000
広告収入	250,000	事務通信費	80,000
寄付金等収入	60,000	印刷費	20,000
利息等雑収入	50	会議費	90,000
		渉外費	70,000
		交通費	70,000
		雑費・手数料	75,000
前年度繰越金	260,318	予備費	60,368
収入合計	1,605,368	支出合計	1,605,368

「東京真田町の会役員名簿」

(平成25年12月1日現在)

職名	氏名
会長	山口元彦
副会長	飯島慶三郎 柴田小夜子 鈴木邦子
理事	監事 深町共栄 堀内 幸
	事務局長 (鈴木副会長兼務)
	会計理事 金子 誠
	荻原啓治 花岡孝雄 堀内寿美 堀内 政 武捨衛人
顧問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政 中島正江

祝 東京真田町の会 一会報26号

ROGOVSKI

ロシア料理 渋谷ロゴスキー

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>
E-mail : rogovski@rogovski.co.jp

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

ロシア料理

渋谷ロゴスキー

東京都渋谷区道玄坂1-2-2
渋谷東急プラザ9階
TEL 03(3463)3665
FAX 03(3461)5084
営業時間 11:00 ~ 22:00 年中無休

ロゴスキー 世田谷区深沢5-5-17
深沢カフェ TEL 03(5706)5922



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

- Mr. Children
- ケツメイシ
- BUMP OF CHICKEN
- RAG FAIR
- ゆず
- melody.

株式会社 トイズファクトリー 顧問 井出 孝光

SUN あなたの街のハウジングパートナー STATE

代表取締役

株式会社 サンステイト 最上忠

東京都知事(6)第58002 社団法人 不動産歩容協会会員
社団法人 全日本不動産協会会員

〒155-0093 東京都世田谷区上野毛2-7-18

Tel 03-5706-5454 Fax 03-5706-5453

Email: sunstate@coffee.ocn.ne.jp

祝 東京真田町の会 一会報26号

齋藤指圧治療院

齋藤 勇一

(真田出身)

〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10
シャポール東松原 301号
☎ 03-3322-6622

貿易物流研究所所長

東京真田町の会

顧問 小林 孝雄

(曲尾出身)

〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5
☎ 045-843-8041 045-349-2084

東京真田町の会

顧問 三井 芳郎

(大庭出身)

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510
☎ 0268-73-2616

東京真田町の会

顧問 塩沢 和政

(大日向出身)

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田 1074-37
☎ 047-450-3348

国画水墨院常任理事

(元)日本選抜美術家協会常任理事審査員
国画院会員、師範

森本 幹生

(入軽井沢出身)

〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8
☎ 044-733-0267オートマタ(西洋からくり)製造・販売
いくさ工房

鈴木 郁夫(横尾出身)

〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷 4-13-7
☎・FAX:048-864-0295
mail:s-ikusa@dab.hi-ho.ne.jp
http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusa/

満開のお屋敷公園のつつじ

東京真田町の会

顧問 中島 正江

(戸沢出身)

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E
☎ 03-3702-1385

ふるさとのコーナー“生のふるさと便り”をお楽しみください

インターネットの検索窓に「上田市役所 ホーム」と入力して検索ボタンをクリックし、検索結果の「上田市役所 - ホーム」の項をクリックして上田市役所のホームページを開き、トップページ左側中段の総合案内項で「広報」をクリック、開いた画面で地域自治センターだより「さなだ」の項をクリックで開き、最新号の項にある N035 平成 25 年 11 月 15 日号 をクリックすると、最新号をフルページの拡大画面で見ることができます。お暇な折に訪れてみてください。ここでは《トップページ》のほか、2～8頁にわたって盛り沢山のふるさとのホットニュースにリアルタイムで接することができます。(写真→38頁)

信州 長野県

Shinshu Nagano Pref.



原田画伯《信州傍陽大庭の夏》：記事 p 10

信州四季旅キャンペーン[夏]
涼をもとめて さわやか信州

信州キャンペーン実行委員会
長野県観光部観光企画課
TEL:026-235-7254



《ふるさと上田のPRバス》：記事 p 9



上田城跡公園にて H25.11.10 記事 P14



箱根宮ノ下也役員研修会

25.9.29



遠征参加の三井顧問ご夫妻…記事 23P



秋色の上田城跡公園「櫨並木」





真田氏発祥の郷

地域自治センターだより **さなだ**

国東上野原町地域自治センター 地域新聞課 〒862-0201 上野原町長119-1
 発行人 佐藤 隆雄 TEL:083-92-2200 FAX:083-92-4140
 発行2013.11.15 No.35

SANADA

**運賃低減バスの実証運行が
始まりました**



「さなだ」最新号トップページ：記事32頁

10月1日から始まった運賃低減バスの実証運行。皆さんはもうご利用されましたか。真田地域では、新屋敷公園線が開通し、10月1日の朝6時から出発式が行われました。

12月19日～25日には、クリスマスイベントが行われ、乗客バス各車両に、お菓子やプレゼントが並びます。

①②③④：りんご狩りとそば打ち体験・昼食風景
H25.11.11 記事14頁

⑤：さようなら！また来てね！鹿教湯の若女将とジュニア

⑥：ふるさとの新緑：太郎山&大庭



写真：新装の傍陽小学校…木の香豊かでエレベーターもアリです



普通教室



理科室



エレベーター



渡り廊下 写真提供：武捨衛人



職員室



特別支援教室



写真提供：上田市教育委員会

図書室



新装なった傍陽小学校：全校生徒数 107 名



日 本 だ ぼ す 平成 25 年 12 月 21 日 発行
発 行 東京真田町の会 会 長 山口 元彦
〒184-0012 東京都小金井市中町 2-19-6 TEL 03-5215-1511
FAX 03-5215-1512
編集委員 武捨 衛人 柴田小夜子 鈴木邦子
印 刷 上田市・精巧堂アオヤギ印刷